

新湾岸道路 第2回 有識者委員会資料

令和7年5月28日

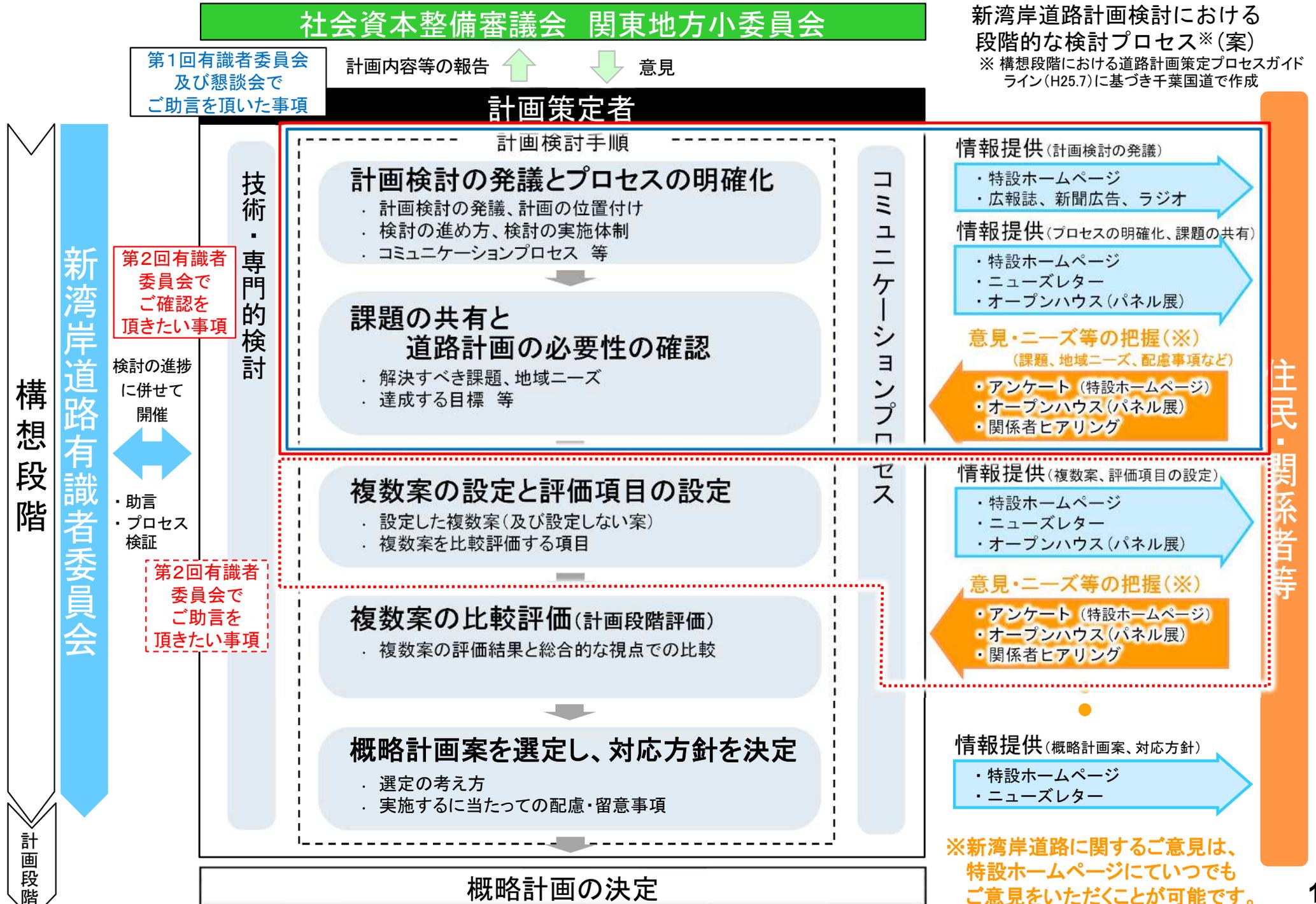
目 次

| | |
|----------------------------------|----|
| 1. これまでの検討経緯 | 1 |
| 2. 課題の共有と道路計画の必要性の確認 | |
| 2-1. 第1回コミュニケーション活動の実施概要 | 4 |
| 2-2. 意見聴取の結果 | 9 |
| 2-3. 頂いたご意見と対応案のとりまとめ | 22 |
| 2-4. 道路計画の必要性の確認 | 29 |
| 3. 複数案の設定と評価項目の設定 | |
| 3-1. 複数案を比較評価するための評価指標について | 32 |
| 3-2. 概略ルート・構造案について..... | 33 |
| 3-3. 第2回コミュニケーション活動について | 37 |

1. これまでの検討経緯

(1) 新湾岸道路 構想段階の進め方

新湾岸道路有識者委員との懇談会
(令和6年10月25日)資料に加筆



(2) 新湾岸道路有識者委員会の意見・指摘の整理

<第1回新湾岸道路有識者委員会>

○開催日：令和6年8月2日(金)15:00～17:00

○有識者：屋井委員長、池邊委員、小幡委員、佐々木委員、白石委員、寺部委員、中村委員、二村委員

○第1回新湾岸道路有識者委員会での主な意見

| 主な意見・指摘事項 | | 対応状況 |
|-----------|--|--|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> これから本格的に新湾岸道路のルートを検討していくことを広く周知することが重要である | <ul style="list-style-type: none"> 新湾岸道路ポータルサイトを開設(R6.9.6) 新聞広告、ラジオ、広報誌、「未来をつなぐ新湾岸道路プロジェクト」(創刊号)を用いて、新湾岸道路プロジェクトが始まったことを周知 |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> 高規格道路は利便性を向上させるという意味で非常に公益性の高いものと認識 | — |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> 自然環境や生活環境への配慮は欠かすことのできない要素であり、構想段階の計画策定プロセスガイドライン(国交省)や道路計画策定プロセスガイドライン(道路局)に沿って計画プロセスを進め、幅広く意見を聴取することは非常に重要 | <ul style="list-style-type: none"> 新湾岸道路ポータルサイトや「未来をつなぐ新湾岸道路プロジェクト」(創刊号)にガイドラインに基づき計画プロセスを進めていくことを表明 |
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> 本件では、多くのステイクホルダーから拾い漏れが無いように丁寧に意見を聞くようなプロセスを経ることが想定されており、必要なプロセス項目として、特段不足しているところはないように思う | <ul style="list-style-type: none"> 環境に関心のある団体をはじめ、沿線地域内外の様々な方からご意見を伺えるよう丁寧なコミュニケーション活動を実施 |
| 5 | <ul style="list-style-type: none"> 環境影響評価の手続きとうまく連携して技術的な議論ができるような形で進めることが非常に大切である | <ul style="list-style-type: none"> 今後の環境影響評価の手続きを見据えて技術的な議論が出来るよう「道路環境影響評価の技術手法」に基づいて検討を進めていく |
| 6 | <ul style="list-style-type: none"> 将来を見据えて評価してもらえただけの材料を準備すべきである。東京の新しい道路が、インフラ技術等によって、地域の環境を改善したと言われるようなものを考えることが望ましい | <ul style="list-style-type: none"> 将来を見据えた意見を聴取できるように、「未来をつなぐ新湾岸道路プロジェクト」(創刊号)やオープンハウスの説明パネルに「WISNET2050・政策集」の概要を掲載 |
| 7 | <ul style="list-style-type: none"> 複数案の設定の段階において、一番注力してコミュニケーション活動を行うべきであり、丁寧にやるべきである | <ul style="list-style-type: none"> 今後の複数案の設定の段階において、丁寧なコミュニケーション活動を実施予定 |
| 8 | <ul style="list-style-type: none"> 新湾岸道路の必要性について、成田空港の機能強化の実現にも関連するので、湾岸地域の社会・地域経済課題へ追記すると良い | <ul style="list-style-type: none"> アンケート項目の課題や期待において、「空港・港湾アクセス」を追記して意見聴取を実施 |
| 9 | <ul style="list-style-type: none"> 新湾岸道路ができることによって地域の未来がどう変わるか、どう変えたいかが一定程度伝えられるようなもの、例えば「WISNET2050・政策集」や「2040年、道路の景色が変わる～人々の幸せにつながる道路～」をコミュニケーション活動の場で情報提供することは、国交省のこれからの道路づくりに対する姿勢を示すことができ、また地域の関心を高める上でも重要である。 | <ul style="list-style-type: none"> 「未来をつなぐ新湾岸道路プロジェクト」(創刊号)に「WISNET2050・政策集」「2040年、道路の景色が変わる～人々の幸せにつながる道路～」の概要を掲載 オープンハウスの説明パネルに「WISNET2050・政策集」の概要を用意して情報提供 |
| 10 | <ul style="list-style-type: none"> 自然環境と景観が配慮事項に記載されているが、環境影響評価では人と自然との触れ合いが評価項目となっているため、追加してもよいと思う。配慮事項については、いろいろな立場の方々の思いを受け止めるようにとりまとめていくのがよいのではないか。 | <ul style="list-style-type: none"> いろいろな立場の方々の思いをアンケートに自由記述欄を設けて意見聴取を行い、人と自然との触れ合いに関する評価項目を追加 環境に関心のある団体をはじめ、沿線地域内外の様々な方からご意見を伺えるよう丁寧なコミュニケーション活動を実施 |
| 11 | <ul style="list-style-type: none"> 千葉県は以前から農業や水産業が盛んな土地であり、育んできた文化がある。新湾岸道路の整備により、更に住みやすく働きやすい場所になるということも改めて出せると良い。 | <ul style="list-style-type: none"> 住みやすく働きやすい場所となるような項目として、アンケートに医療連携や生活環境に関する項目を設けて意見聴取を行った |

(2) 新湾岸道路有識者委員会の意見・指摘の整理

<新湾岸道路有識者委員との懇談会>

○開催日：令和6年10月25日(金)16:30～17:40

○有識者：屋井委員長、小幡委員、佐々木委員、白石委員、寺部委員、中村委員

○新湾岸道路有識者委員との懇談会での主な意見

| 主な意見・指摘事項 | | 対応 |
|-----------|--|--|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> 環境に関心のある団体の中には反対の立場をとっている方もいるので、早い段階からご意見をもらっていくことが重要である | <ul style="list-style-type: none"> 千葉県の環境部局や水産部局、沿線市のご意見を踏まえて、環境に関心のある団体や漁業組合からご意見を伺えるよう丁寧なコミュニケーション活動を実施(環境に関心のある団体:11団体、漁業組合:3組織から意見を聴取) |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> 環境への配慮が必要であるため、千葉県の環境部局や水産部局とも丁寧にコミュニケーション活動を実施していくことが重要である | |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> 情報発信について、XなどのSNSも活用していくと良い | <ul style="list-style-type: none"> 千葉国道事務所のX(旧Twitter)や関東地方整備局広報チャンネル、千葉市公式チャンネルのYouTubeを用いて、新湾岸道路の概要やオープンハウスの開催について情報発信 |
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> アンケート項目の選択肢の中の「生活環境の改善」や「生活環境への配慮」は、定義が広いので括弧書きで例示があると良い | <ul style="list-style-type: none"> アンケート項目の「生活環境の改善」や「生活環境への配慮」に括弧書きで例示を追加し、「未来をつなぐ新湾岸道路プロジェクト」(第2号)に具体的な課題を掲載 |
| 5 | <ul style="list-style-type: none"> オープンハウスは興味を持ってもらえるよう、施設の入口など多くの方の目にふれる場所で実施した方が良い。また、パネルだけではなく机や椅子も置いておくとコミュニケーションが取りやすくなる | <ul style="list-style-type: none"> オープンハウスの開催施設において、集客施設ではエスカレーター近くなど人通りの多いところで極力実施 オープンハウス開催日は、コミュニケーションが取れるよう机や椅子を用意し、詳しい説明やアンケート記載の際に利用 |
| 6 | <ul style="list-style-type: none"> 検討プロセスは国交省のガイドラインに沿って作られているため問題ない | — |
| 7 | <ul style="list-style-type: none"> パネル展示は、来訪者の多いアクアラインの海ほたるなどにも展示してはどうか | <ul style="list-style-type: none"> オープンハウス開催箇所に館山自動車道「市原SA」を追加 来訪者の多い東京湾アクアライン「海ほたるPA」、首都高速湾岸線「市川PA」、館山自動車道「市原SA」、京葉道路「幕張PA」に「未来をつなぐ新湾岸道路プロジェクト」(創刊号、第2号)を配架 |
| 8 | <ul style="list-style-type: none"> WISNET2050・政策集の概要をニューズレターに掲載すると良い | <ul style="list-style-type: none"> 「未来をつなぐ新湾岸道路プロジェクト」(創刊号)の4面に「WISNET2050・政策集」を掲載 |

2. 課題の共有と道路計画の必要性の確認

2-1. 第1回コミュニケーション活動の実施概要

(1) コミュニケーション活動(情報発信)の実施概要

○情報発信では、新湾岸道路の検討の進め方(案)、検討の実施体制、コミュニケーションプロセス(案)等について、沿線地域内外の方々へ広く周知するため、特設ホームページ、ニュースレター、オープンハウス(パネル展併用)等により情報発信を行った

■地域への情報発信について

| 周知方法 | 周知対象 | 概要 | 実施箇所 | 実施期間 |
|-----------------|---------------------|---|---|---|
| 特設ホームページ | 沿線地域住民・沿線地域外の住民・事業者 | ・特設ホームページを開設し、計画の進捗、これまでの検討資料など新湾岸道路に関する情報を提供 | ・千葉国道事務所「新湾岸道路ポータルサイト」 ・千葉県、千葉市、市川市、船橋市、習志野市、市原市、浦安市の各HPで新湾岸道路コーナーの作成し新湾岸道路ポータルサイトへのリンクを掲載 | ・令和6年9月6日開設 |
| 新聞広告ラジオ | | ・地元新聞や地元ラジオで、新湾岸道路の計画検討の着手や意見聴取の実施について情報提供 | ・千葉日報 ・BAYFM78 ・ちいき新聞 | ・令和6年11月25日 ・令和6年11月25日 ・令和6年12月20日 |
| SNS(X・YouTube) | | ・新湾岸道路の概要について、X(旧Twitter)にて記事等を掲載し情報発信するとともにYouTubeを用いて概要の解説動画を配信 | ・X(旧Twitter):千葉国道事務所@milit_chibakoku ・YouTube 関東地方整備局 広報チャンネル 千葉市公式チャンネル Chiba City official | ・令和6年12月～ |
| ニュースレター | 主に沿線地域の住民・事業者 | ・新湾岸道路の検討状況や内容など、その時々ニュース情報を湾岸地域の地域住民等に情報提供 | ・ニュースレター「未来をつなぐ新湾岸道路プロジェクト」創刊号、第2号をそれぞれ5万部発行 ・電子媒体:新湾岸道路ポータルサイトへ掲載 ・紙媒体:湾岸地域の沿線市(千葉市、市川市、船橋市、習志野市、市原市、浦安市)の公共施設(市役所、公民館など)、257箇所に配架 | ・令和6年11月15日 電子媒体の掲載 ・令和6年11月下旬～ 各施設へ配架 |
| オープンハウス(パネル展併用) | | ・市役所や集客施設等でパネル展示等による情報提供を行うとともに、対話形式による解説や意見聴取を行う | ・沿線市(区)役所:千葉市、市川市、船橋市、習志野市、市原市、浦安市 ・集客施設:ららぽーとTOKYOBAY、アリオ市原、イオンモール幕張新都心など ・道の駅いちかわ、休憩施設等、計24箇所で開催 | ・令和6年12月2日～ 令和7年2月24日 ※パネル展示期間も含む |
| 広報誌 | | ・千葉県や沿線各市の広報誌でオープンハウスの開催や意見募集等を呼びかけ | ・千葉県、千葉市、市川市、船橋市、習志野市、市原市、浦安市 | ・令和6年11月～ |
| その他 | | ・沿線市の公立・私立の小中学校(教育委員会含む)へキッズチラシを配布 | ・沿線市の小・中学校 | ・令和6年12月 |
| | | ・オープンハウスの開催日時と場所をポスターで掲示 | ・沿線市役所と商業施設(アリオ市原)のHP | ・令和6年12月～ 令和7年1月 |

(2) コミュニケーション活動(意見聴取)の実施概要

○意見聴取では、新湾岸道路の検討の進め方や湾岸地域で解決すべき課題、新湾岸道路への期待、新湾岸道路の検討を進めるうえで配慮すべき事項について、沿線地域の対象者から幅広く意見を把握するため、アンケート、オープンハウス、関係者ヒアリングを行い、計4, 331票の回答を得た

■地域との意見聴取について

| 分類 | 実施対象 | 概要 | 実施箇所等 | 実施期間 | 回答数 |
|---------------------|----------------------------|---|--|--------------------------|-------------------------------|
| アンケート | 主に地域住民 | ・特設ホームページに開設したご意見フォームによるWebアンケートとニュースレターに挟み込んだ紙媒体のアンケート票の配布 | ・「新湾岸道路ポータルサイト」内のWebアンケート http://form.run/@shinwangandouro ・ニュースレター「未来をつなぐ新湾岸道路プロジェクト」第2号にアンケート票を挟み込み | 令和6年11月15日 ～令和7年2月28日 | Web 2, 209件 郵送 261件 |
| オープンハウス (パネル展併用) | | ・市役所や集客施設等でパネル展示等による情報提供を行うとともに、ニュースレターとアンケート票を配布 | ・沿線市(区)役所: 千葉市、市川市、船橋市、習志野市、市原市、浦安市 ・集客施設: ららぽーとTOKYOBAY、アリオ市原イモール幕張新都心など ・道の駅いちかわ、休憩施設(幕張PA、市原SA) 計24箇所で開催 | 令和6年12月5日 ～令和7年2月22日 | 1, 521件 |
| 小 計 | | | | | 3, 991件 |
| 関係者ヒアリング | 湾岸地域を利用している企業や沿線地域住民などの関係者 | ・経済産業、運輸物流、医療教育等の企業・団体・管理者等に新湾岸道路のアンケート概要の説明を行い、アンケート票を送付 | ・沿線企業 ・地元経済・商工業団体 ・公共、観光交通、物流業者 ・医療関係 ・警察、消防本部 ・教育機関 ・施設管理者 ・漁業協同組合 ・まちづくりに関心のある協議会等 | 令和6年12月 ～令和7年3月 | 340件 |
| | | ・環境に関心のある団体や地域住民に個別説明を実施して意見を聴取 | ・環境に関心のある団体(NPO法人や三番瀬保護団体) ・地域住民(千葉市) | 令和7年1月15日 ～令和7年3月11日 | 環境に関心のある11団体 地域住民(千葉市)13会場 |
| 合 計 | | | | | 4, 331件 |

(3) 意見聴取について (アンケート)

○アンケートは、令和6年11月15日(金)～令和7年2月28日(金)の期間にて実施

○アンケートは、新湾岸道路ポータルサイトの意見フォーム(ポータルサイト、ニュースレターのURL・QRコードからリンク)を活用したWebアンケート、ニュースレター第2号の折込によるアンケート票配布(郵便での回答)、オープンハウスへの参加者に回答いただいた ※ニュースレター添付のアンケート票は後日配送分も含む

○計画検討の進め方、湾岸地域の課題・新湾岸道路への期待・配慮事項について、意見聴取を実施

Webアンケート画面

新湾岸道路プロジェクト
アンケートフォーム



新湾岸道路プロジェクトについてあなたのご意見をお聞かせください。

お住いの地域 (都道府県) 必須

選択してください

性別 任意

男性 女性

年齢 任意

選択してください

職業 任意

選択してください

湾岸地域※の道路の利用状況についてお答えください。

※湾岸地域：千葉市、市川市、船橋市、習志野市、市原市、浦安市の沿岸部地域と考えています。

普段湾岸地域でご利用されている主な交通手段は何か? 必須

自動車 公共交通(バス、タクシー)
 バイク 自転車
 徒歩 その他(電車などを含む)
 利用しない

ご利用の主な目的は何か? 必須

(複数選択可)

通勤・通学 家事・買い物
 仕事(営業・運送等) 通院
 観光・レジャー その他

アンケート票(ニュースレター折込)

アンケートの回答方法

アンケートへの回答については、以下の2つの方法をご用意しています。
どちらかご回答しやすい方法でご回答ください。 ※両方お答えいただくことはできません。

1 スマートフォンやパソコン等で回答

Webアンケートサイトからご回答ください。
右記のQRコードから意見フォームへアクセスできます。
アンケート期間:令和6年11月15日(金)
～令和7年2月28日(金)



2 郵送にて回答

下記の回答用紙にご記入いただき、返信用封筒をご利用のうえ、期間内にポストに投函してください。
アンケート期間:令和6年11月15日(金)
～令和7年2月28日(金)

回答用紙 (1/2)

差し支えない範囲であなたについてお聞かせください

| | | | | | |
|---------|--|-----|-----|-----------------------------|-----------------------------|
| ●お住いの地域 | 県・都 | 市・区 | ●性別 | <input type="checkbox"/> 男性 | <input type="checkbox"/> 女性 |
| ●ご年齢 | <input type="checkbox"/> 20歳未満 <input type="checkbox"/> 20代 <input type="checkbox"/> 30代 <input type="checkbox"/> 40代 <input type="checkbox"/> 50代 <input type="checkbox"/> 60代 <input type="checkbox"/> 70歳以上 | | | | |
| ●職業 | <input type="checkbox"/> 会社員 <input type="checkbox"/> 公務員 <input type="checkbox"/> 自営業 <input type="checkbox"/> 学生 <input type="checkbox"/> 主婦・主夫 <input type="checkbox"/> その他 | | | | |

湾岸地域※の道路の利用状況についてお答えください

●普段、湾岸地域でご利用されている主な交通手段は何ですか?

自動車 公共交通(バス、タクシー) バイク 自転車 徒歩 その他(電車などを含む) 利用しない

●ご利用の主な目的は何か?(複数選択可)

通勤・通学 家事・買い物 仕事(営業・運送等) 通院 観光・レジャー その他 利用しない

●どの程度の頻度でご利用になられますか?

週5回以上 週3～4回 週1～2回 月1～2回 回数回(年1～6回程度) 利用しない

※湾岸地域…千葉市、市川市、船橋市、習志野市、市原市、浦安市の沿岸部地域と考えています。

問1) 湾岸地域において解決すべき課題についてお聞かせください。

湾岸地域には、どのような解決すべき課題があると思いますか?
以下、5段階評価で当てはまる1～5を一つ選択してください。
(5段階評価) 1.そう思う 2.ややそう思う 3.どちらともいえない 4.あまり思わない 5.全く思わない

| | | | | | | |
|--------------------|---|---|---|---|---|-----------------------------|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 是非、具体的にお書きください。左記以外でも構いません。 |
| 交通渋滞 | | | | | | |
| 交通事故 | | | | | | |
| 医療(救急搬送など) | | | | | | |
| 防災(道路ネットワークの多重化など) | | | | | | |
| 物流の円滑化 | | | | | | |
| 港湾・空港へのアクセス | | | | | | |
| 生活環境(抜け道利用など) | | | | | | |
| その他() | | | | | | |

裏面に続く

回答用紙 (2/2)

問2) 新湾岸道路に期待することについてお聞かせください。
あてはまる項目について、☑をお願いします。(複数選択可)

| | |
|---|-----------------------------|
| <input type="checkbox"/> 交通渋滞の緩和 <input type="checkbox"/> 交通事故の減少 <input type="checkbox"/> 救急医療施設への円滑な搬送 <input type="checkbox"/> 災害時に使用できる道路ネットワークの確保 <input type="checkbox"/> 産業・観光拠点へのアクセス性向上 <input type="checkbox"/> 港湾・空港へのアクセス性向上 <input type="checkbox"/> 生活環境の改善(抜け道利用等の軽減など) <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 特になし | 是非、具体的にお書きください。左記以外でも構いません。 |
|---|-----------------------------|

問3) 新湾岸道路について配慮すべきことをお聞かせください。
あてはまる項目について、☑をお願いします。(複数選択可)

| | |
|---|-----------------------------|
| <input type="checkbox"/> 豊かな自然環境(三番瀬※等)の保全 <small>※浦安市、市川市、船橋市、習志野市の東京湾沿いに広がる約1,800haの自然環境の多様性を残している貴重な干潟・浅海域</small> <input type="checkbox"/> 海への眺望景観の保全 <input type="checkbox"/> 生活環境の保全(騒音・振動など) <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 特になし | 是非、具体的にお書きください。左記以外でも構いません。 |
|---|-----------------------------|

問4) その他、利用しやすい道路となるためのアイデアや道路の付加機能、新湾岸道路の計画検討の進め方などについてご自由にお書きください。

(3) 意見聴取について (オープンハウス)

○令和6年12月2日～令和7年2月24日にかけて、沿線市役所(千葉市、市川市、船橋市、習志野市、市原市、浦安市)や、沿線に立地する集客施設、道の駅等、計24箇所で、オープンハウス・パネル展を開催して情報提供と意見聴取を実施

◆オープンハウス開催会場



◆オープンハウスの様子



| | オープンハウス | パネル展示期間 | 会場 | 来場者数 | アンケート | 回収率 |
|---|--------------------|----------------|-------------------|------------------------|-----------|----------------|
| ① | 12月 5日(木) | 12/ 2(月)～ 6(金) | 千葉市美浜区役所 | 62(278) | 10 | 16.1% |
| ② | 12月 7日(土) | 12/ 5(木)～ 9(月) | ららぽーとTOKYO-BAY | 67(184) | 11 | 16.4% |
| ③ | 12月11日(水) | 12/ 9(月)～13(金) | きぼーる | 51(302) | 17 | 33.3% |
| ④ | 12月12日(木) | 12/ 9(月)～13(金) | 市原市役所 | 33(78) | 18 | 54.5% |
| ⑤ | 12月14日(土) | 12/13(金)～19(木) | アリオ市原 | 288(1135) | 103 | 35.8% |
| ⑥ | 12月20日(金) | 12/16(月)～20(金) | 船橋市役所 | 97(300) | 57 | 58.8% |
| ⑦ | 12月21日(土) | 12/19(木)～23(月) | トヨコト幕張店 | 163(388) | 39 | 23.9% |
| ⑧ | 12月26日(木) | 12/23(月)～27(金) | 習志野市役所 | 89(263) | 20 | 22.5% |
| ⑨ | 1月 9日(木) | 1/6(月)～10(金) | 浦安市役所 | 114(342) | 48 | 42.1% |
| ⑩ | 1月11日(土) 12日(日) | — | 幕張PA(上り) | 77(--) 107(--) | 45 64 | 58.4% 59.8% |
| ⑪ | 1月16日(木) | 1/14(火)～17(金) | 打瀬公民館 | 66(226) | 8 | 12.1% |
| ⑫ | 1月18日(土) | 1/14(火)～20(月) | モリシア津田沼 | 156(673) | 24 | 15.4% |
| ⑬ | 1月19日(日) | 1/16(木)～20(月) | イモール幕張新都心 | 872(3139) | 127 | 14.6% |
| ⑭ | 1月23日(木) | 1/20(月)～24(金) | 市川市役所第1庁舎 | 90(180) | 33 | 36.7% |
| ⑮ | 1月25日(土) 26日(日) | — | 幕張PA(下り) | 148(--) 155(--) | 109 54 | 73.6% 34.8% |
| ⑯ | 1月30日(木) | 1/27(月)～31(金) | 千葉市役所 | 125(434) | 95 | 76.0% |
| ⑰ | 2月 1日(土) | 1/30(木)～2/3(月) | 道の駅いちかわ | 164(421) | 127 | 77.4% |
| ⑱ | 2月 6日(木) | 2/ 3(月)～ 7(金) | アリオ蘇我 | 182(698) | 53 | 29.1% |
| ⑲ | 2月 8日(土) | — | 市原SA(上り) | 146(--) | 122 | 83.6% |
| ⑳ | 2月 9日(日) | — | 市原SA(下り) | 83(--) | 49 | 59.0% |
| ㉑ | 2月11日(火) | 2/ 7(金)～13(木) | イオン新浦安ショッピングセンター | 261(1100) | 83 | 31.8% |
| ㉒ | 2月15日(土) | 2/13(木)～17(月) | ニッケルトップラザ | 210(576) | 76 | 36.2% |
| ㉓ | 2月20日(木) | 2/17(月)～21(金) | 市川市役所行徳支所 | 47(124) | 29 | 61.7% |
| ㉔ | 2月22日(土) | 2/20(木)～24(月) | イオンリンピアショッピングセンター | 522(1699) | 100 | 19.2% |
| | 合計 | | | 4735(12734) | 1521 | 32.1% |

※ () はパネル展示期間も含む来場者数

(3) 意見聴取について（関係者ヒアリング①）

- 経済産業、運輸物流、医療、教育等の企業・組織・団体等はアンケートで意見を聴取
- 環境に関心のある団体や希望する地域住民に個別説明を行いヒアリングにより意見を聴取

■湾岸地域における主な企業・組織・団体等

| 分野等 | 協会・組織・団体名等 | 対象数（カッコ内は会員数等） | 回答数 | 手法 |
|------------------|---------------------|----------------|---------------|---------------------|
| 事業者 | 千葉県臨海北部工業連絡協議会 | 約630社 | 17社 | 事務局へ説明を行い、アンケート票を送付 |
| | 千葉県臨海南部工業連絡協議会 | 約54社 | 19社 | |
| | 千葉県内陸工業連絡協議会 | 約1300社 | 15社 | |
| 地元経済・ 商工業団体 | (一社)千葉県商工会議所連合会 | 1団体(21商工会議所) | 0団体(4商工会議所)※ | |
| | 千葉県商工会連合会 | 1団体 | 1団体 | |
| | 千葉県中小企業団体中央会 | 1団体 | 1団体 | |
| | (一社)千葉県経済協議会 | 1団体(47企業、37団体) | 0団体(6企業、6団体)※ | |
| | (一社)千葉県経営者協会 | 1団体 | 1団体 | |
| | 千葉県経済同友会 | 1団体 | 1団体 | |
| 交通・観光・ 港運関係者 | (一社)千葉県バス協会 | 1団体(会員120社) | 1団体(7社) | |
| | (一社)千葉県トラック協会 | 1団体(会員2,027社) | 1団体(147社) | |
| | (一社)千葉県タクシー協会 | 1団体(会員155社) | 1団体(33社) | |
| | 千葉港運協会 | 1団体 | 1団体(7社) | |
| | 沿線観光協会 | 2協会 | 1協会 | |
| 医療機関 | 救急救命センター(第三次救急医療機関) | 6施設 | 3施設 | |
| | 災害拠点病院 | 6施設 | 1施設 | |
| 警察署、消防署、 教育機関 | 警察署 | 8機関 | 4機関 | |
| | 消防本部 | 6機関 | 3機関 | |
| | 教育機関 | 90小中学校 | 44小中学校 | |
| 施設管理者 | 港湾施設管理者 | 2施設 | 0施設 | |
| | 幕張新都心まちづくり協議会など | 3団体(会員39社) | 2団体(5社) | |
| | 公園管理者 | 7施設 | 5施設 | |
| 漁業関係者 | 漁業協同組合 | 3組織 | 3組織 | |
| 環境に関心のある団体 | NPO法人、三番瀬保護団体 | 11団体 | — | 個別説明を行い 意見を聴取 |
| 地域住民 | 千葉市 | 13地区 | — | |

※各団体の企業等が個別に回答

(3) 意見聴取について（関係者ヒアリング②）

○関係者ヒアリングの一環として、環境に関心のある団体(11団体)と自治会回覧を通じて参加希望のあった地域住民(千葉市)を対象に13会場でヒアリングを実施

■ 環境に関心のある団体へのヒアリング

| | 参加団体 | 実施日 | 参加者数 |
|---|--|---------|------|
| A | NPO法人三番瀬フォーラム | 1/15(水) | 2名 |
| B | 浦安三番瀬を大切に する会 | 1/20(月) | 3名 |
| C | 三番瀬を守る連絡会 三番瀬を守る会 千葉県野鳥の会 千葉の干潟を守る会 千葉県自然保護連合 市川三番瀬を守る会 三番瀬を守る署名 ネットワーク | 1/27(月) | 10名 |
| D | NPO法人さざなみ | 1/29(水) | 7名 |
| E | 日本野鳥の会千葉県 | 2/21(金) | 1名 |

■ 地域住民へのヒアリング

| | 実施会場 | 実施日時 | 参加者数 |
|---|--------------------|----------------|------|
| ① | (美浜区) 磯辺公民館 | 2/26(水) 19:00~ | 4名 |
| ② | (美浜区) 打瀬公民館 | 2/27(木) 19:00~ | 4名 |
| ③ | (美浜区) 高浜公民館 | 2/28(金) 14:00~ | 3名 |
| ④ | (美浜区) 幸町公民館 | 2/28(金) 19:00~ | 4名 |
| ⑤ | (美浜区) 高洲コミュニティセンター | 3/4(火) 14:00~ | 16名 |
| ⑥ | (美浜区) 真砂コミュニティセンター | 3/6(木) 14:00~ | 6名 |
| ⑦ | (中央区) 末広公民館 | 3/6(木) 19:00~ | 4名 |
| ⑧ | (中央区) 宮崎公民館 | 3/7(金) 16:00~ | 2名 |
| ⑨ | (中央区) 新宿公民館 | 3/7(金) 19:00~ | 1名 |
| ⑩ | (中央区) 蘇我コミュニティセンター | 3/10(月) 14:00~ | 7名 |
| ⑪ | (美浜区) 稲浜公民館 | 3/10(月) 19:00~ | 4名 |
| ⑫ | (美浜区) 幕張西公民館 | 3/11(火) 14:00~ | 4名 |
| ⑬ | (中央区) 生浜公民館 | 3/11(火) 19:00~ | 7名 |

※ 聞き取り内容は、オープンハウス等で聞いているアンケート項目と同様

2. 課題の共有と道路計画の必要性の確認

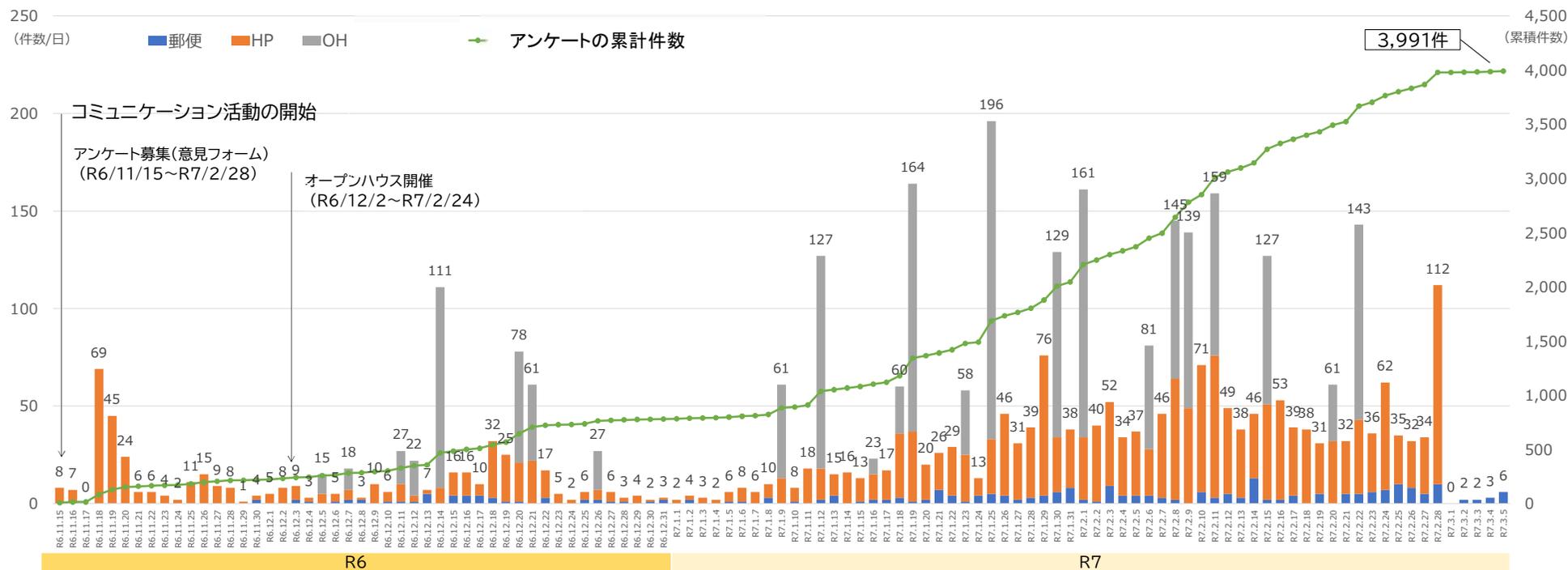
2-2. 意見聴取の結果

(1) 意見聴取の結果

○コミュニケーション活動を開始した令和6年11月15日～令和7年2月28日の終了までの期間に寄せられた地域住民を対象としたアンケート回答数は3,991件、関係者(企業・組織・団体等)を対象としたアンケート回答数は340件

■アンケート回答件数

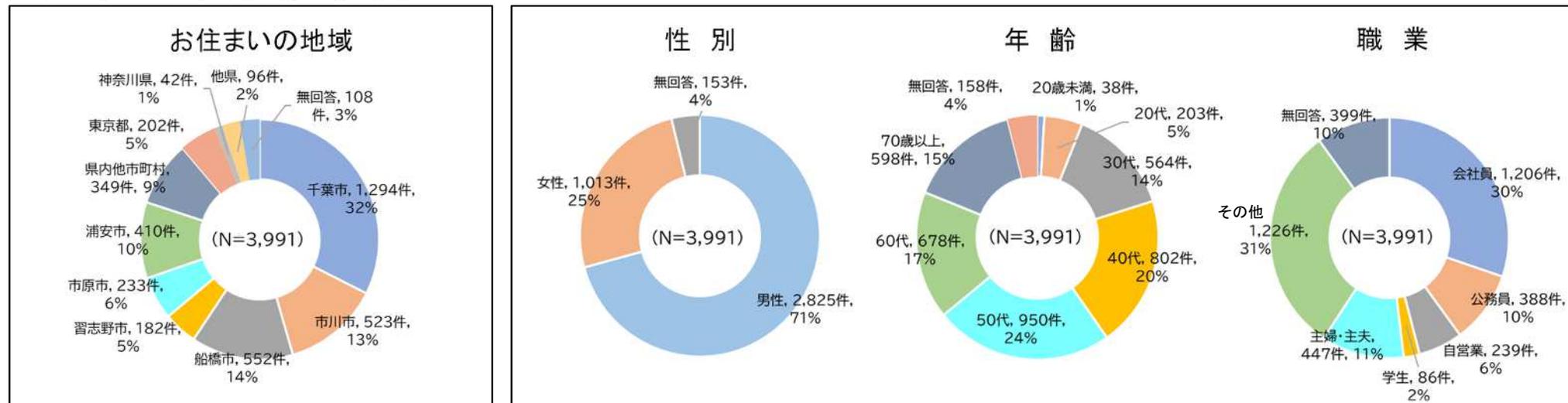
| 収集方法 | 開始日 | 概要 | 回答数 |
|---------------------|------------|---|--------|
| ご意見フォーム (ホームページ) | 令和6年11月15日 | 新湾岸道路ポータルサイトにて常時回答を募集(新湾岸道路プロジェクトご意見フォームから入力) | 2,209件 |
| 郵便 (ニューズレター) | 令和6年11月下旬 | 公共施設、公民館、SAPA、駅舎広報スタンドにて、ニューズレターを配架。郵送にて回収 | 261件 |
| オープンハウス | 令和6年12月5日 | 会場24ヶ所にてパネル展示を中心とした情報提供を開催。ニューズレターを配布、意見やアンケートを回答 | 1,521件 |
| 小計 | | | 3,991件 |
| 関係者ヒアリング | 令和6年12月上旬 | 経済産業、運輸物流、医療・教育等の企業・組織・団体等へアンケート票を送付 | 340件 |
| 合計 | | | 4,331件 |



(1) 意見聴取の結果 (住民アンケートの集計①)

- アンケート回答者の属性は、沿線6市にお住まいの方が約8割、男性が約7割、年齢は幅広い層から得られており、職業は会社員とその他が約3割だった
- 湾岸地域の道路の利用状況として、交通手段は「自動車」を利用する方が最も多く、利用目的は「家事・買い物」「観光・レジャー」が多く、利用する頻度は「週5回以上」「週1～2回」が多かった

■アンケート回答集計 (属性)



■アンケート回答集計 (湾岸地域の道路の利用状況)

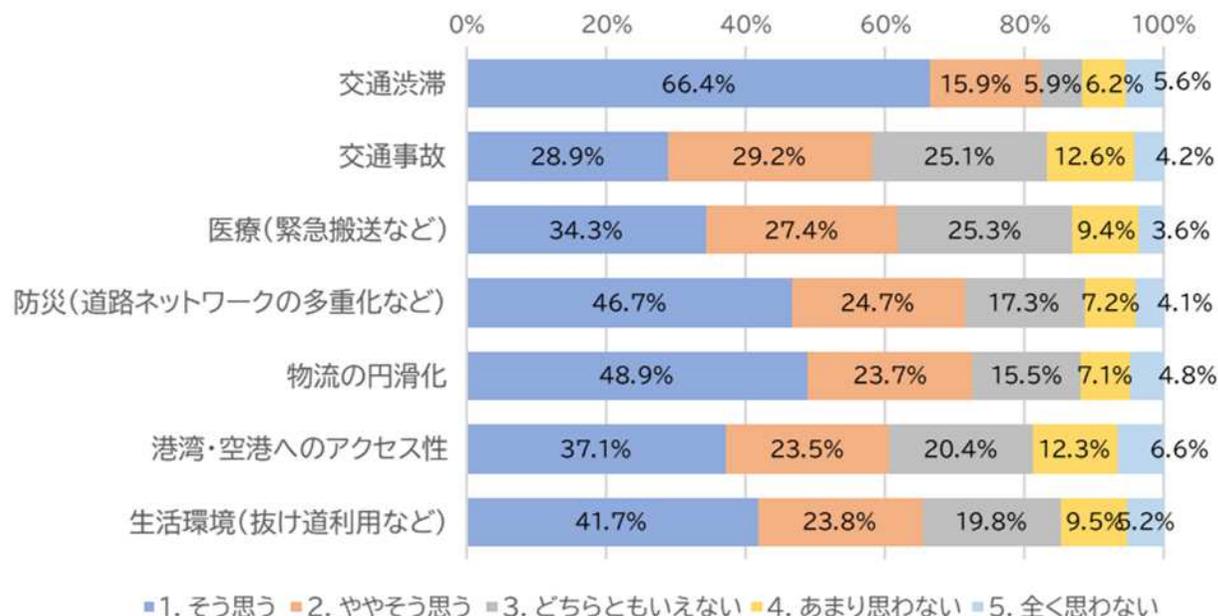


(1) 意見聴取の結果 (住民アンケートの集計②)

- 湾岸地域において解決すべき課題は、「交通渋滞」への関心が高い回答者が最も多かった
- 新湾岸道路に期待することは、「交通渋滞の緩和」をあげる回答者が最も多かった
- 新湾岸道路について配慮すべきことは、「豊かな自然環境(三番瀬等)の保全」や「生活環境の保全(騒音・振動など)」をあげる回答者が多かった

■アンケート回答集計 (課題、期待、配慮)

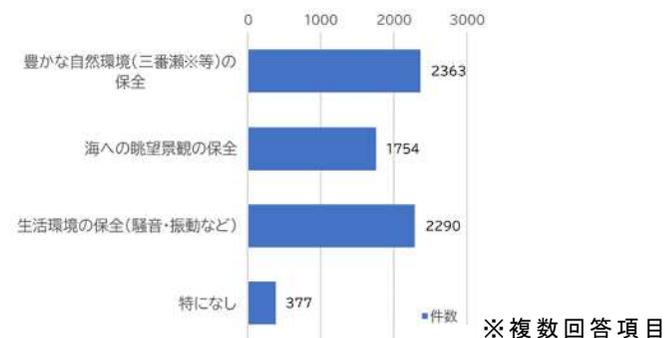
問1) 解決すべき課題(5段階評価) (n=3,991)



問2) 新湾岸道路に期待すること (n=3,991)



問3) 新湾岸道路について配慮すべきこと (n=3,991)



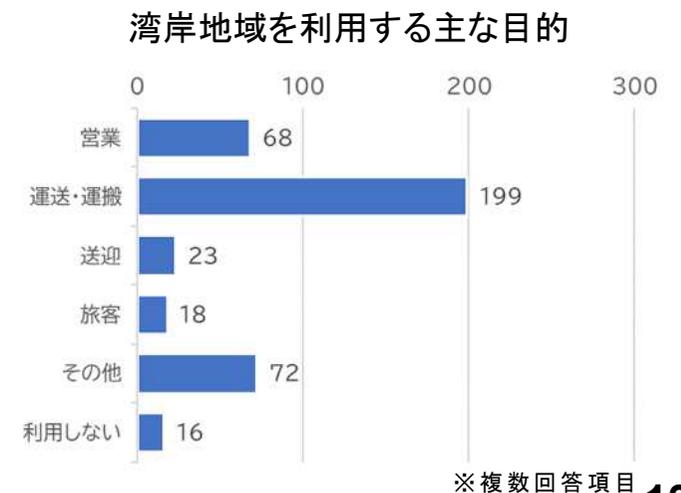
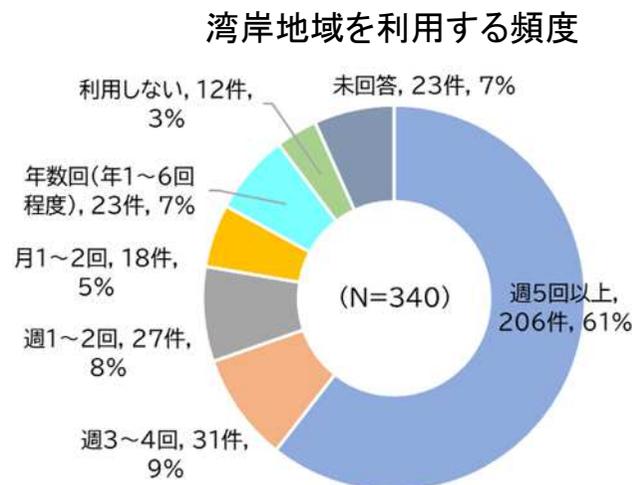
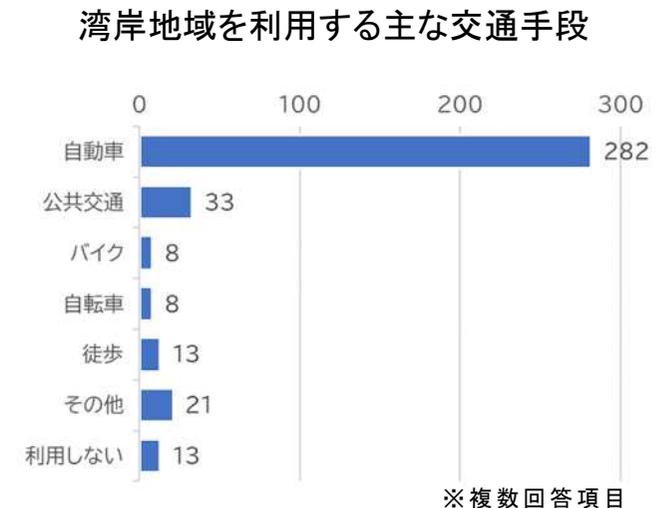
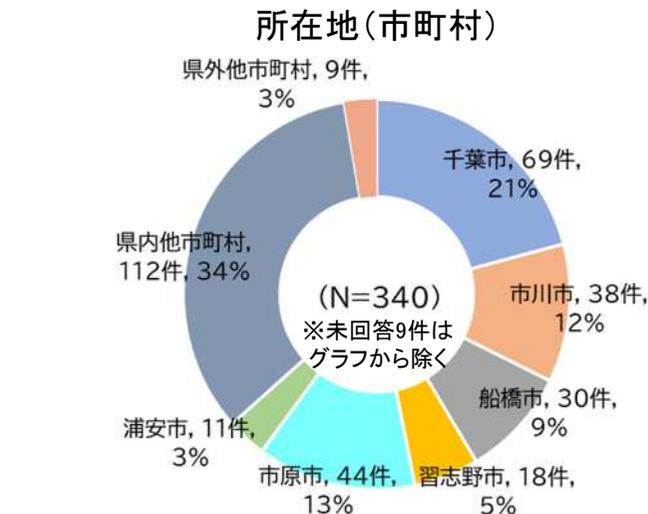
(1) 意見聴取の結果 (関係者ヒアリングの集計①)

- 湾岸地域に立地もしくは湾岸地域の道路利用が想定される企業・組織・団体等にアンケート票の送付(地元経済・商工業団体や漁業関係者等には個別説明)を実施し、340社・団体から回答を得た
- 湾岸地域の道路利用頻度は、「週5回以上」が最も多く約6割、次いで「週3~4回」の約1割であった
- 主な交通手段では、「自動車」が最も多く全回答の約8割を占め、次いで「公共交通」が約1割であった
- 主な目的では、「運送・運搬」が最も多く全回答の約6割を占め、次いで「営業」の約2割であった

■関係者ヒアリングの回答集計

| 主たる業種 | 件数 |
|----------------|------|
| 農業・林業 | 0件 |
| 水産業・漁業 | 3件 |
| 鉱業 | 2件 |
| 建設業 | 7件 |
| 製造業 | 36件 |
| 電気・ガス | 6件 |
| 運輸・通信業 | 194件 |
| 卸売・小売・飲食業 | 2件 |
| 金融・保険業 | 2件 |
| 不動産業 | 5件 |
| サービス業 | 8件 |
| 学校・教育関係 | 44件 |
| 医療関係 | 4件 |
| 警察・消防 | 8件 |
| 施設管理者(港湾・公園など) | 7件 |
| その他 | 21件 |

※ 複数業種を選択した企業があるため、回答数の340件と合致しない。

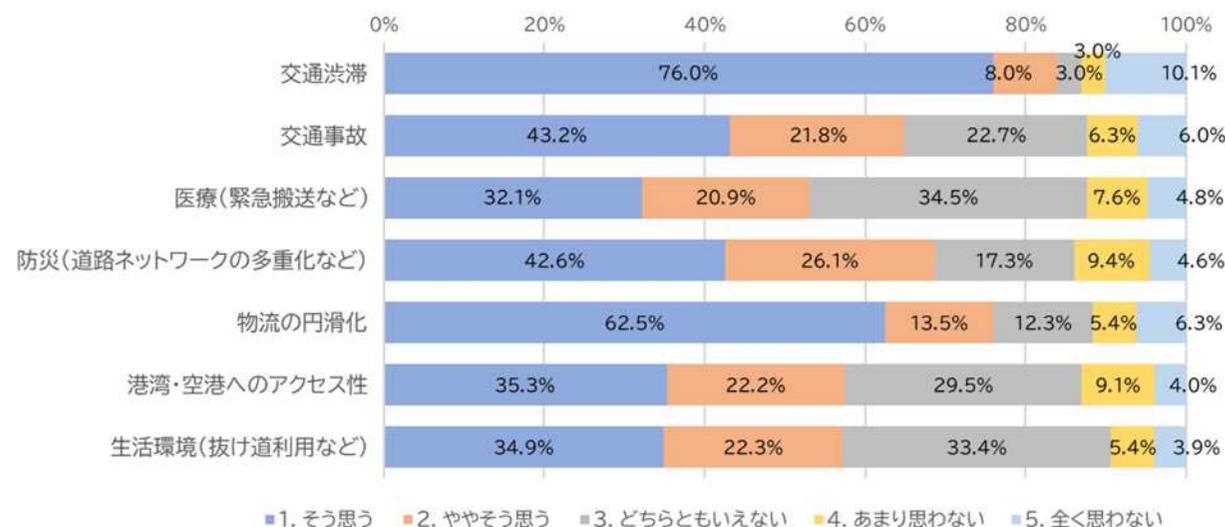


(1) 意見聴取の結果 (関係者ヒアリングの集計②)

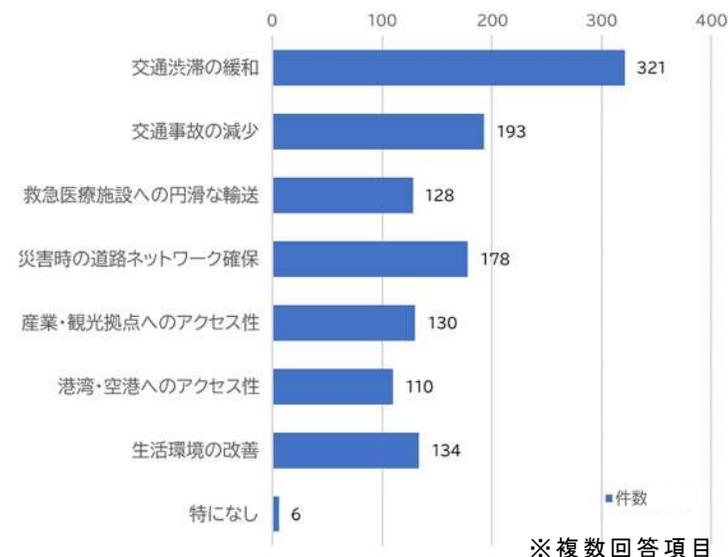
- 湾岸地域の解決すべき課題は、「交通渋滞」、「物流の円滑化」を挙げる企業が多かった
- 新湾岸道路に期待することは、「交通渋滞の緩和」を挙げる企業が最も多く、次に「交通事故の減少」、「災害時の道路ネットワーク確保」を挙げる企業が多かった
- 新湾岸道路について配慮すべきことは、「豊かな自然環境(三番瀬等)の保全」、「生活環境の保全(騒音・振動など)」を挙げる企業が多かった

■アンケート回答集計 (課題、期待、配慮)

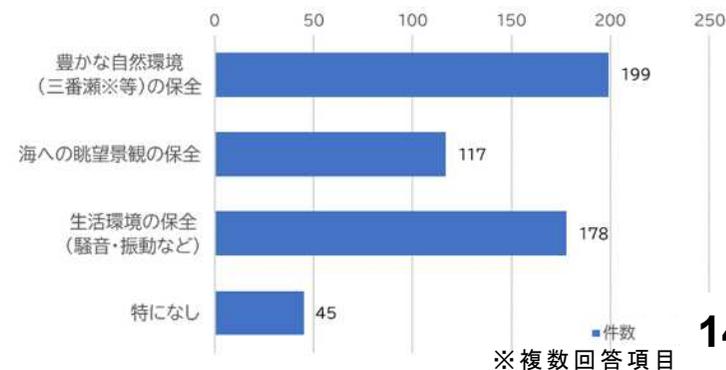
問1) 解決すべき課題(5段階評価)(n=340)



問2) 新湾岸道路に期待すること (n=340)



問3) 新湾岸道路について配慮すべきこと (n=340)



(2) 主な意見の把握 (アンケートで得られた自由回答意見)

- 今回のコミュニケーション活動で得られたアンケートは、Webアンケート(郵送含む)やオープンハウスが3,991件、企業等アンケートで340件の回答を得た
- そのうち、自由記述欄にご意見が記載されたアンケートは、Webアンケート(郵送含む)やオープンハウスで2,432件(約6割)、企業等アンケートで177件(約5割)であった
- 得られた自由回答意見は、個人が特定される部分は「●」に置き換えて記載をしたうえで「新湾岸道路プロジェクトに寄せられたご回答とご意見の一覧」として、新湾岸道路ポータルサイトに公開(R7.5.7)

■千葉県国道事務所「新湾岸道路ポータルサイト」

ちばこく 千葉県国道事務所

千葉県国道事務所ホーム > 新湾岸道路ポータルサイト

新湾岸道路ポータルサイト

コミュニケーション活動

新湾岸道路の構想段階(概略ルート・構造)の検討では、皆様からのご意見が重要な役割を担っています。今後、様々なコミュニケーションの機会を通じて、是非、皆様のご意見を積極的にお寄せください。

■オープンハウス(パネル展示を中心とした情報提供)

皆様のご意見を幅広くお聞きするための場として、「オープンハウス(パネル展示を中心とした情報提供)」を開催します。パネル展示期間のうち、オープンハウス開催日には担当スタッフが常駐し、ご意見やご疑問について直接お伺いします。オープンハウスの参加予約は不要です。どなたでもご自由に参加できますので、皆様の参加をお待ちしております。オープンハウスは、湾岸地域の沿線市(千葉市、市川市、船橋市、習志野市、市原市、浦安市)の市役所や集客施設などで2024年12月~2025年2月の間に行いました。

※オープンハウスは終了しました。ご協力ありがとうございました。実施結果 [こちらから](#)

■ニュースレター

「未来をつなぐ新湾岸道路プロジェクト」は、新湾岸道路の検討状況を湾岸地域の地域住民の皆様にお知らせするため、構想段階(概略ルート・構造)の検討している間、節目ごとに発

■アンケート結果

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

[アンケート結果はこちらから](#)

新湾岸道路プロジェクトに寄せられたご回答とご意見の一覧

市民アンケートへ寄せられた自由回答意見

(アンケート実施概要)

- ・ アンケート実施時期 Web、郵送:令和6年11月15日~令和7年2月28日、オープンハウス:令和6年12月5日~令和7年2月22日
- ・ 回収数総数:3,991件(Web:2,209件、郵送:261件、オープンハウス:1,521件)
- ・ 回答いただいたアンケートのうち、自由記述の回答一覧を示す(自由記述未回答は対象外)
- ・ 個人が特定される部分は「●」、判読が困難な部分は「*」に置き換えて記載

| No | 1 解決すべき課題 | | 2 期待する事項 | | 3 配慮すべき事項 | | 4 その他(自由記述) |
|----|--------------------|---|--------------------|---|------------|--|--|
| | (その他) | (自由記述) | (その他) | (自由記述) | (その他) | (自由記述) | |
| 1 | 自転車専用道路、もしくはゾーンの拡充 | 朝夕の渋滞の解消、自転車用レーンやサイクリングロードの設置を行い観光収入の増加につなげる。 | 自転車用レーン・専用道路の設置・拡充 | 買い物や観光に気軽に使える道路になるように期待 自転車でも通行しやすい路線にしてほしい。 | | 自転車利用者への配慮 | ロードバイクを健康増進のために乗り始めたが思った以上に自転車には厳しい道路状況が多い。せっかくの海沿いなのに海に沿って続く道がなく残念に思っている。 |
| 2 | | | | ・国道357号等、周辺一般道の渋滞解消。 ・周辺道路を含めた旅行速度の向上。 | | | ・信号交差点の少ない道路としてほしい。 ・信号機を設置する場合でも待ち時間が少ない交差点としてほしい。 |
| 3 | アスファルト路面の劣化 | とにかく日中は渋滞が酷く常態化している。深夜以外は基本的に渋滞している。 | | 357号の渋滞が酷いので交通の分散による渋滞の緩和を期待。東京と行き来できる主要道路が357号しかないので並行する形で分散出来れば良い。 | 自転車利用者への配慮 | 自然環境は保全しなければいけないと思うが景観についてはそれほどでもない。騒音振動も海岸沿いなら工業地帯で住宅も少ないのでさほど気にすることはないと思う。 | 東京との往来など長距離移動を目的としたバイパス的な位置づけにして信号や交差点をなるべく少なくして渋滞を防止し短距離の移動は現行357号の使用を推奨する。 |
| 4 | | 船橋周辺の渋滞がひどい。(国道県道含む) | | 船橋周辺にトラックなどが多く走っているイメージですが、そのような車が新湾岸道路を過ってくれば、普段利用する県道などが空いて走りやすくなると期待しています。 | | 生活道路とのとりあい | |
| 5 | | 船橋市日の出の渋滞が酷すぎる今できる事あると思うんですが湾岸市川から湾岸習志野区間を無料にして欲しい。もしくは50円とか100円とか安い料金にすれば船橋の日の出の渋滞は多少解消するのではないかと思います | | | | | |
| 6 | 渋滞が酷すぎてバスが定時 | | | | | | 有料道路だけでなく複数車線のある一般道もしっかりと整備して欲しい、正直三番瀬の環境保護より道 |

(2) 主な意見の把握 (アンケートで得られた自由回答意見)

| アンケートの主な自由回答意見 (※新湾岸道路プロジェクトに寄せられたご回答とご意見の一部を記載) | |
|--|--|
| 問1) 湾岸地域において解決すべき課題についてお聞かせください | |
| 交通渋滞 | <ul style="list-style-type: none"> ・国道357号および交差する道路の慢性的な渋滞 (特に船橋市内、次いで千葉市内) がいつまで経っても解消しない ・湾岸地域に重要産業、港湾、レジャー施設、大型商業施設が混在し、そのアクセスとして常に湾岸道路が渋滞している ・市原から千葉市役所付近までは今でも (特に平日午前中) 渋滞が酷く、迂回ルートもほとんどないので困る ・千葉駅付近からの高速道路のアクセスが悪く、東京方面、市原方面のどちらに向かおうとしても必ず国道357号と穴川付近の渋滞に巻き込まれてロスが多い ・国道357号線の蘇我から市原方面にかけての渋滞がひどく、特に市原埠頭に向かう右折レーンの渋滞がひどい。 ・幕張メッセを中心とした施設においてイベント等が開催される期間は、周辺道路が大変混雑し、自動車等で来場する方の利便性が著しく損なわれている ・国道14号と国道296号は、道路の容量と、実際の交通量が見合っておらず、いつも渋滞に巻き込まれるので、解決してほしい課題だと考える ・湾岸地域の旅行速度が極めて低い状況を放置すること ・空港移動の際バスを利用するが、渋滞のため時間が読めないで利用を躊躇する |
| 交通事故 | <ul style="list-style-type: none"> ・事故も多発しているので、少しでも減ってほしい ・交通事故や災害などの際に迂回出来るルートがない又は市街地になり大型車など迂回が困難 (例: 国道16号市原市内陥没事故) |
| 医療 (救急搬送など) | <ul style="list-style-type: none"> ・救急車や災害時等の緊急時に渋滞に巻き込まれてしまうと人命にも影響を及ぼす可能性があります ・人口密度が高く高齢者が多い割に大きな病院が近隣に少ない |
| 防災 (道路ネットワークの多重化) | <ul style="list-style-type: none"> ・来たるべき大災害に対応した避難経路であり津波高潮対応の防災機能を持つ社会資本の整備 ・船橋中央ふ頭は新港大橋1本でつながっているため、大規模地震の発生が近く想定される中、リダンダンシー確保の観点から、新湾岸道路との接続は必須 ・電車も道路も代替手段がなく、災害時に陸の孤島になること |
| 物流の円滑化 | <ul style="list-style-type: none"> ・物流業の車と一般車両が常に混在している ・工業地帯・港湾施設・空港での貨物輸送、生活用途などが多重化しているので、それらが分散できるような道路づくりをしてほしい |
| 港湾・空港へのアクセシビリティ | <ul style="list-style-type: none"> ・千葉港からの最寄りのインター (京葉道路・穴川インター) まで約8kmと遠く、全国でも類を見ない ・港湾地域 (千葉中央港) へのアクセスは、すこぶる悪く、高速道路が近くになく、ICも遠い場所にある ・千葉からの羽田空港、都内からの成田空港への主要経路であるため安定した渋滞防止策が必要 |
| 生活環境 (抜け道利用など) | <ul style="list-style-type: none"> ・渋滞を避けるために道幅の狭い生活道路を抜け道として利用する人が多く、事故発生のリスクを強く感じます ・金土日、メッセ付近でイベントがあった日の渋滞をさけるため生活道路へ逃げる他県ナンバーの危険な走行がみられる ・湾岸地域の渋滞を回避するために、学校の周りの道路を抜け道として利用する自動車も少なくない |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・「千葉・埼玉は道が狭い」と言われ続けて半世紀以上が経つが、成田・京葉工業地域～東京間に位置し需要が旺盛な当該地域は、今もなお、道路インフラが貧弱 ・国道357号など当該地域には十分な自転車走行環境が確保されておらず、自動車に依存せざるを得ない状況となっていることも課題 ・欧州での自動車ファーストから自転車や徒歩優先への切り替えが進んでいると思いますが、この狭い日本でもその方向への切り替えの検討をすべき ・人口が減少する中で、AIも進展、自動運転等も普及する中で、巨額の公共事業を行う必要は全くない ・今後の人口減少が想定される中で、未来に向けて自然環境の保全の方が、子世代・孫世代の財産として価値が大きい ・きれいな海、夕日等、海岸部特有のロケーションがあるが、駐車場(無料)があまりなく、工場だらけでうまく利用されていない |

(2) 主な意見の把握 (アンケートで得られた自由回答意見)

| アンケートの主な自由回答意見 (※新湾岸道路プロジェクトに寄せられたご回答とご意見の一部を記載) | |
|--|--|
| 問2) 新湾岸道路に期待することについてお聞かせください | |
| 交通渋滞の緩和 | <ul style="list-style-type: none"> ・千葉市中心部から東京方面へのアクセス向上、時間短縮。千葉西警察署付近の14号-357号渋滞の解消 ・船橋がボトルネックになり恒常的に発生している渋滞、その他14号、16号、357号各所で発生している渋滞の解消 ・新湾岸道路の開通により、市原市付近から東京方面へ向かう新しい選択肢が生まれ渋滞が緩和することを期待 ・商業施設、イベント会場などが多く週末や連休などの交通渋滞の解消 |
| 交通事故の減少 | <ul style="list-style-type: none"> ・新湾岸道路が新設されることにより、交通流が分散し、現在既存のR357号等の渋滞の緩和、事故の減少を期待する ・事故などやインフラ更新の工事の際も前提とするバックアップの確保をしておくこと |
| 救急医療施設への円滑な輸送 | <ul style="list-style-type: none"> ・帝京大学ちば医療センターが姉崎エリアより移転する方針もあり、救急医療での搬送先への移送にも効果を期待します ・救急搬送では、高度な治療が期待できる千葉県総合救急災害医療センター(3次医療機関)への搬送時間の短縮が大いに予想できる |
| 災害時に使用できる道路ネットワークの確保 | <ul style="list-style-type: none"> ・昨年10月の大雨により国道16号の市原-蘇我間の陥没事故が発生し改めて東京湾岸(京葉工業地帯)の代替道路がないことの危険性を認識 ・大規模災害(例えば南海トラフなど)時の避難経路、復旧支援のための交通網 ・千葉港における耐震強化岸壁等の整備が進み、近い将来首都直下型地震や南海トラフ巨大地震の発災確立が高く大規模被害が想定される中千葉港が緊急物資輸送基地としての機能を十分発揮させるには、交通網の整備にかかっている |
| 産業・観光拠点へのアクセス性向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・千葉駅周辺からの高速道路アクセスの改善 ・首都圏からのアクセスが高まることによる房総半島南部の活性化と、災害対策としての道路の役割に期待しています。 ・高速道路は災害の他、事故、故障車の渋滞や通行止の影響を受けることが多く、迂回路を複数確保することが輸送の信頼につながります。 ・幕張メッセを中心とした各施設におけるイベント等開催時に、これまでの来場ルートに加えて、新湾岸道路を活用した来場ルートがあることは、来場者の選択肢を増やし利便性が向上するものと期待 ・都内からの飛躍的なアクセス向上によって地域発展が期待される。 ・地域の交通渋滞を抜本的に解消し、効率的な都市間移動を実現することを期待 |
| 港湾・空港へのアクセス性向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・各産業・観光・空港拠点へのアクセス向上も期待できる ・千葉港へ直結してインターチェンジを設置していただきたい。(横浜港、川崎港、東京港は直結しており利便性で他港より劣っている) |
| 生活環境の改善 (抜け道利用等の軽減など) | <ul style="list-style-type: none"> ・抜け道利用の減少等による生活環境の改善を期待 ・船橋、行徳、浦安近辺の渋滞緩和と蘇我-船橋間の居住環境改善 ・本校の目の前の道路は、幹線道路の渋滞を避けた車が多く、特に朝の登校時刻に交通量が増え、安全対策が不可欠です |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・自動運転への事前対応や自転車で動きやすく事故が起きにくい道路整備 ・千葉の湾岸部のシンボルとなる様な構造物として欲しい ・未来志向のインフラとして、全線で完全自動運転に対応する技術基盤を整備することで、安全性と利便性を大幅に向上させてほしい ・自動車専用道路の整備に加え、平行する自転車道の整備にも期待します。 ・美浜から舞浜の立体交差が完成すれば渋滞は解消するので新湾岸道路は不要。無駄な二重投資はやめるべき ・湾岸地区は道路はスカスカで設置は税金の無駄。渋滞して細い道しかない内陸側の複線化やバイパス線がむしろ必要 ・埼玉県で発生した道路陥没のような重大事故の発生を防止するためにも、新道路建設より既存道路の改修に税金を投入すべき |

(2) 主な意見の把握 (アンケートで得られた自由回答意見)

| | アンケートの主な自由意見 (※新湾岸道路プロジェクトに寄せられたご回答とご意見の一部を記載) 問3) 新湾岸道路について配慮すべきことをお聞かせください |
|------------------------------|--|
| 豊かな自然環境 (三番瀬等)の保全 | <ul style="list-style-type: none"> ・これ以上自然破壊が進まないように、是非残された三番瀬を残してほしい ・三番瀬から稲毛海岸に至る自然環境は保全して欲しい。市民の憩いの場所であるとともに観光資源でもある ・三番瀬にはカムチャッカやオーストラリアから鳥類が飛来しており、三番瀬の保全は、県内や国内にとどまらず国際的な規模の課題である ・三番瀬は地球を南北に移動する渡り鳥たちにとって、世界的に貴重な地点であり、バードウォッチャーたちの聖地でもある ・ラムサール条約登録地である谷津干潟は水鳥等たくさんの生き物たちが生息し、渡り鳥の中継地とし重要な場所 ・自然環境の保全の中に、鳥たちの環境についても加えて考慮してくれると嬉しい ・自然環境への影響については、事業の中止も選択肢として含めた上で十分に検討すること ・水が綺麗で、色々な魚が泳いでいる。水鳥も多く自然の素晴らしさは貴重である ・船橋はアサリが採れるが潮干狩りがなくなってしまうことを心配 |
| 海への眺望景観 の保全 | <ul style="list-style-type: none"> ・海への眺望景観への配慮は最大限に努めて欲しい ・三番瀬海浜公園、茜浜緑道は富士見百景に登録され、県民、国民の自然の財産であり、大切にしてもらいたい ・稲毛や幕張・千葉みなとなどは景観・眺望も千葉の魅力の一つであるため、その魅力をつぶすようなことはしないように期待 ・千葉県は「海に面している」というのが一つのブランド価値となっていることから、海への眺望景観の保全 ・海の見える眺望が物件の価値の大きな要素であるため、眺望の阻害による資産価値の低下を懸念 ・景観を道路が邪魔するような資料になっているが、海ほたるのように、道路から海を楽しむという考えもある ・道路の休憩施設から海を楽しみ、一緒に感じられる施設が設置されると嬉しい ・眺望景観は新たな道路をイルミネーション等で、新景観とすれば良い |
| 生活環境の保全 (騒音・振動など) | <ul style="list-style-type: none"> ・建設に関する騒音や環境への配慮もしっかり対処してほしい ・住民環境への配慮、及び海と住宅地がシームレスに繋がる貴重な環境への配慮 ・海浜大通りは、ランニングや自転車、散歩など、風景や環境を楽しんでいる人が多い ・ちば港や稲毛の浜に特に新しい施設は望まないが、散歩、サイクリングやウインドサーフィン等を安全で楽しめる地区としてキープして欲しい ・眺望・景観の保全だけでなく千葉市の場合、現在の海岸へのアクセスが保全されること ・海の自然は子供を遊ばせるのにもよい。環境で今のままを守ってくれるとよいと思う。より便利になると行きやすくなるとうれしい ・新規道路建設を検討する場合は、該当地域の住民の生活環境を悪化(騒音・大気汚染等)させないよう十分に留意して欲しい |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・未来を予想し新しいモビリティに対応できるようにしておく ・船橋市潮見町へのアクセスには橋梁が1本しかないため震災の際に影響が出ている 市営プールなどもあり季節柄多くの子供でにぎわうことから、今後は安全・安心のために複数の橋梁が必要ではないか ・新しい道を作るのも良いが、もっと周辺住民の安全性を考えて歩道や自転車道の整備をして欲しい ・災害時でも緊急車両が通行できるような配慮が必要 ・騒音を抑えられる道路、防護壁、また眺望など様々な検討・工夫が必要であり、何より自然と地域と利用者が共存共栄できること ・高架にするならば斜張橋などシンボリックな構造を取り入れて、どうせ景観を阻害するので写真を撮りたくなるようにしてほしい |

(2) 主な意見の把握 (アンケートで得られた自由回答意見)

アンケートの主な意見 (※新湾岸道路プロジェクトに寄せられたご回答とご意見の一部を記載)

問4) その他、利用しやすい道路となるためのアイデアや道路の付加機能、新湾岸道路の計画検討の進め方などについてご自由にお書きください

<利用しやすい道路となるためのアイデアや道路の付加機能>

- ・海岸線や住宅に配慮し、思わず訪れたいくなるようなデザイン性、照明の重視、海上道路としての実現による、新たな付加価値の創造
- ・今後数年～十数年で大きく進むと予想される道路交通の電動化、自動化を見据えた設計、構造にしてほしい
- ・周辺にある港湾施設や市場などと高速道路の一体整備をしてほしい
- ・千葉港の港湾機能を強化できる施策
- ・気持ちよくドライブできる道路で、かつ災害に強い道路にして欲しい
- ・付近に大規模PAがないので、長距離ドライバー向けの休憩できる場所をどこかに設けて欲しい
- ・湾岸線なので、海の眺望を利用した休憩スポット(PA・SA・道の駅など)をお願いしたい
- ・西湘バイパスのように、海岸線の景色を楽しめる道路を期待してます
- ・京葉工業地帯の観光資産である、工場夜景が見られるような工夫があると良い
- ・横浜に横浜ベイブリッジ、東京にレインボブリッジがあるように千葉にもランドマークとなるような橋があれば地域の観光資源、活性化につながる
- ・全線を3車線、120km走行が可能な高規格道路にしてほしい
- ・高速道路内の物流車両の渋滞を緩和する策として登坂車線の様な“物流車両優先車線”の設定を提案したい
- ・自動運転や2両連結トラックの運行車線ができるなど物流の人員不足の改善、物流の効率化、人身事故の防止が図られるような道路になるといい
- ・“平日は特に物流トラックによる混雑で生産性が低下”しているように感じるため、自動物流道路を早く整備する必要性がある
- ・将来的な自動運転車の広まりに備えて完成6車線規格が望ましい
- ・ルウェーにあるような高速道路に沿った快適な自転車道を整備してください
- ・洪水対策のために、陛下がマレーシアで視察された貯水機能付きの地下トンネル式にしてはどうか

<計画検討の進め方>

- ・地元住民との意見交換会を頻繁に行い、出来る限り住民の声を反映した新道路にしてほしい
- ・地域住民への丁寧な説明をお願いしたい
- ・環境問題や住環境、或いは災害対策の課題と併せて、大規模な新規道路建設が将来にわたり本当に必要とされるのか
- ・市民の意見や疑問、要望についてはひとつひとつ丁寧に精査し、計画 (あるいは計画中止決定) に反映させること
また精査や検討のプロセスをその都度開示すること

<その他>

- ・住民合意も大切であるが、スピード感を持って進めてほしい
- ・湾岸地域は大規模な商業施設が多数あるため、人と車の分離、自転車道路の確保、信号機の工夫 (刷新) を国 (関連省庁) や市町村と連携してトータル的に何がベストか考えていただきたい
- ・今後人口減少と高齢社会に伴い新車登録台数がどんどん減り交通渋滞も無くなり湾岸地域に新たな高速道路は不要
- ・出来る限り早く実現するために、土地の収用が少なくなるルートを選定してほしい
- ・有料道路による整備・補修が行われやすく、いつでも安心して使える道路にしてほしい

(2) 主な意見の把握 (環境に関心がある団体<個別ヒアリング>)

○環境に関心がある団体への意見聴取では、三番瀬などの自然環境への影響は主要な懸念事項であり、新湾岸道路の必要性や計画検討の進め方についても意見があった

意見要旨 (参加団体※A～Eの各参加団体はP9の左表参照)

- ・人口の減少にあわせて自動車の交通量も減るのではないかと。将来の状況を考慮したうえで、必要なのか疑問である。(団体B、C、D)
- ・混雑している一部の区間のみを整備すれば十分ではないか。既存の国道357号等を拡幅すれば十分ではないか。(団体B、C、D)
- ・千葉港の物流問題に対しては道路輸送だけではなく鉄道輸送も考えるべきではないか。(団体D)
- ・財政上問題がないのか心配である。(団体C)
- ・青潮対策や橋梁から水を出して海へ酸素を供給する等の自然環境への対策を実施して欲しい。(団体A)
- ・新習志野駅の再開発など周辺の開発と連携しつつ、環境にも資するなど将来の付加価値があると良い。(団体A)
- ・三番瀬と谷津干潟には多くの水鳥が飛来しており、飛行ルートが遮られるのではないかと。多様な生態系が脅かされることを懸念している。(団体C、E)
- ・三番瀬の劣化を懸念している。(団体C、E)
- ・第二東京湾岸道路の用地を結ぶと三番瀬を通ることになるのではないかと心配している。三番瀬に道路を通すことは絶対にやめてほしい。(団体C)
- ・ポートタワー付近の人工干潟、養老川河口の干潟も自然環境が豊かであり、影響を懸念している。(団体E)
- ・千葉市美浜区周辺は静かな住宅地域であるため、騒音や排気ガスなどの影響が心配。(団体C)
- ・埋立地は地震に弱いと、そこに道路を作るとは心配に思う。(団体C)
- ・道路を作らないという選択肢を含めて検討して欲しい。(団体C)
- ・評価項目の重みづけや重視するポイントを明らかにしてほしい。(団体C)
- ・プロジェクト自体を知らない住民も多いだろう。丁寧に情報提供して欲しい。(団体C、D)
- ・プロジェクトがどのような段階にあるのか、都度説明や情報提供して欲しい。(団体A、B)
- ・ヒアリング結果も都合の良い意見のみを恣意的に選ぶのではないかと。皆の意見を共有して欲しい。(団体C、D)
- ・有識者委員会に自然環境の専門家がおらず、つくるための専門家だけになっているように思える。(団体C)

(2) 主な意見の把握 (地域住民<個別ヒアリング>)

○地域住民への意見聴取では、海への眺望景観に関する懸念や生活環境への懸念に関する意見のほかに、新湾岸道路の必要性や計画検討の進め方に関する意見があった

意見要旨 (実施会場※①～⑬の実施会場はP9の右表参照)

- ・人口減少・高齢化している中で、新しい道路をつくらなくともよいのではないか。(会場①、④、⑤、⑥、⑦、⑪)
- ・将来はさらに人口や物流等が減少する可能性もあるため、将来の状態を踏まえた検討をしてほしい。(会場③、④、⑤、⑥、⑫)
- ・千葉県外の人にとって便利で県内の住民にはメリットがないのではないかと不安に思う。(会場⑩)
- ・国道357号や県道15号等の渋滞緩和、地域活性化、災害対策に期待している。(会場②、⑧、⑨、⑩、⑬)
- ・メリットを得たいため、できるだけ早く実現して欲しい。(会場⑤、⑧、⑬)
- ・一般道との接続は利便性の観点から十分に検討されることを期待している。(会場⑧)
- ・特に鳥類(コアジサシ等)は貴重であり、影響を懸念している。(会場⑤、⑥)
- ・海岸沿いは朝日や夕日や富士山の眺望など景観が魅力であり、景観の良さを求めてこの場所に移ってきた人も多く、地域コミュニティにとっての重要な価値になっており、それが損なわれるのではないかと今から憂鬱な気持ちである。(会場②、③、④、⑤、⑥、⑨、⑪、⑫)
- ・景観への影響を考えると地下構造しか考えられない。高架は景観が悪くなるうえ、その下は暗く、治安も悪化するのではないかと心配している。(会場①、⑪)
- ・騒音や排気ガスによる大気汚染が発生するのではないかと懸念している。(会場②、③、⑤、⑥、⑩、⑪、⑫)
- ・海岸沿いはサイクリングやジョギングなどを楽しんでおり、そうした生活ができなくなることは避けて欲しい。(会場①)
- ・資産価値が落ちるのではないかと心配している。ウインドサーフィンもできるなど、都市間競争の意味でも海との関係は重要である。(会場①)
- ・海辺のランドデザイン構想は市民参加を通じて策定されており、魅力でもあるため、構想と整合させてほしい。(会場①)
- ・発展は重要であるが、過去を振り返ることができるような歴史的・文化的な配慮を検討して欲しい。(会場⑬)
- ・自治会連合会が地域の声を代表するプラットフォームとなっている。まずは自治会連合会に相談して欲しい。(会場①、②、⑤、⑩、⑫)
- ・自治会の回覧での周知では情報の周知が遅く、範囲も十分でない。意図的に伝わらないようにしているのではと不信に感じた。(会場⑦、⑨、⑩、⑪、⑬)
- ・情報が少なく、イメージがわきにくいので、より具体的な情報を出してほしい。(会場①、③、④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩、⑪、⑫)
- ・費用や具体的な効果に加えてデメリットも明確に示してほしい。(会場③、⑤、⑫)
- ・説明の仕方、情報の出し方が、整備することが前提のように感じる。(会場①、④、⑤、⑪)
- ・実はルートも既に決まっているのではないかと不審に思う。(会場①、③、⑤)
- ・今回のヒアリングは意見を聞いたというアリバイ作りのように感じる。今後どのように意見が反映され、どのように計画が進められるのか示してほしい。(会場③、⑤、⑦)
- ・今回だけでなく、各ステップごとに何度も住民と対話して欲しい。(会場②、③、⑤、⑧、⑨)
- ・直接大きな影響が及ぶ住民への具体的な配慮を充実する姿勢が見えないことが不安であり不満である。(会場②、⑩、⑫)
- ・有識者委員会に地元の声が届くのか不安に思う。(会場②、⑤、⑥)
- ・国だけでなく、地元をよく理解している県や市も主体的に関わってほしい。(会場③)

2. 課題の共有と道路計画の必要性の確認

2-3. 頂いたご意見と対応案のとりまとめ

(1) 頂いたご意見と対応案の取りまとめ方法

頂いた意見のとりまとめ方法

- みなさまからのご意見について、①意見の見方、②意見の集約、③意見の内容に応じた区分を踏まえて意見要旨をとりまとめる
- 意見要旨に対して、④対応案を「a.補足説明」「b.進め方に反映」「c.解決すべき課題・ニーズ・配慮すべきことに反映」「d.概略計画決定に向けた今後の検討プロセスへ申し送り」「e.概略計画決定以降の事業化時に検討へ申し送り」の5種類に分類してとりまとめる

みなさまからの「意見」

主な意見の聴取内容

- ・湾岸地域において解決すべき課題
- ・新湾岸道路に期待すること
- ・新湾岸道路について配慮すべきこと
- ・計画検討の進め方、付加機能

意見のとりまとめ対象

- ・アンケート(Web・郵送) : 令和6年11月15日(金)～令和7年2月28日(金)
- ・オープンハウス : 令和6年12月 5日(木)～令和7年2月22日(土)
- ・関係者ヒアリング : 令和6年12月上旬 ～令和7年3月中旬

意見要旨

①意見の見方

⇒主張(例:Aルートにすべき)ではなく、理由となっている関心事(例:環境影響を抑えられるなど)に着目

②意見を集約

⇒同じ趣旨の意見は集約。意見数の多寡ではなく、少数であっても異なる意見はひとつの意見として整理

③意見の内容に応じた区分

⇒「計画検討の進め方」、「解決すべき課題・期待すること・配慮すべきこと」、「その他」に区分

対応案

④意見要旨への対応を5種類に分類

⇒「a.補足説明」「b.進め方に反映」「c.解決すべき課題・ニーズ・配慮すべきことに反映」「d.概略計画決定に向けた今後の検討プロセスへ申し送り」「e.概略計画決定以降の事業化時に検討へ申し送り」に分類

(2) 意見要旨

○「計画検討の進め方」に関する意見

| 分類 | | 意見要旨 |
|--------|---|---|
| 情報提供 | 伝え方 | (1) わかりやすく理解しやすいことを期待 (2) 地域の声を代表する自治会連合会を介した対応がよい |
| | 情報内容 | (3) イメージしやすい具体的な情報など、提供情報が充実されることを期待 (4) プロジェクトがどのような段階にあるのかの情報提供が必要 |
| | | (5) 根拠が示されないと疑問が残る |
| 周知 | (6) プロジェクトについて十分に周知されるよう、多様な方法で周知して欲しい (7) 直接大きな影響が及ぶ住民への具体的な配慮を充実する姿勢が見えず不満 | |
| 意見把握 | 発言機会 | (8) 各ステップごとに何度も住民と対話することで、意見を言う機会が充実するとよい |
| | 方法 | (9) 直接的に何度も対話して意見をくみ取ってもらわないと不安 (10) 広くいろいろな立場の人から意見が反映されるとよい |
| | 反映 | (11) アリバイ作りになっているのではないか心配 |
| 決め方 | 公平性 | (12) 一方的な主張や意見に偏らないか心配 (13) 納得できる形での決め方に期待 (14) 都合の良い意見のみを恣意的に選ぶことがないことを期待 (15) 他の市民の全ての意見を見たい (16) 有識者委員会に地元の声が届くのか不安に思う |
| | | 決定のタイミング |
| | 決め方の周知 | (18) どのように決めるのか分からない |
| 検討の進め方 | 複数案 | (19) 様々な案を検討したい (20) 整備の優先順位を明確にして欲しい |
| | 比較評価 | (21) 様々な観点で比較することが重要 (22) 偏った評価になるのではないか心配 (23) 費用や具体的な効果の他、デメリットも明確にすることが重要 (24) 評価項目の重みづけや重視するポイントを明らかにすることが重要 |
| 検討体制 | 体制 | (25) 有識者委員には自然環境の専門家がおらず、地元の状況がしっかり理解され配慮されるのか不安 (26) 地元を理解している県や市にも主体的に関わってもらえると安心 |

(2) 意見要旨

○「解決すべき課題・期待すること・配慮すべきこと」に関する意見(1/2)

| 分類 | | 意見要旨 |
|---------|----------------|---|
| 交通需要 | 将来は不要 | (27) 道路を作ることが目的になっているのは問題 (28) 整備しない場合も案に含めて欲しい (29) 将来の交通需要は減少し道路は必要ないのではないか疑問 (30) 国道357号などの混雑区間のみを整備すれば十分だと思う |
| | 将来にも対応 | (31) 将来の開発や移動需要を見据えて計画することが大切 |
| 移動性 | 一般道の渋滞 | (32) 一般道(国道357号,国道14号等)の慢性的渋滞の解消に期待 (33) 渋滞に伴う移動時間が無駄 |
| | 特定時間帯の渋滞 | (34) 通勤時間帯や休日の激しい渋滞の解消に期待 |
| | 迂回ルート | (35) 渋滞時や災害時の迂回路が必要 |
| | 南北方向の移動 | (36) 内陸部や南北方向の移動が困難 |
| 信頼性 | 移動時間 | (37) 渋滞のため移動時間が読めない |
| 走行性 | 移動速度 | (38) 信号や右左折車のため走行性が低下することが不満 |
| 歩行者・自転車 | 歩行者・自転車の移動性 | (39) 歩きやすさや自転車の走りやすさや快適性が改善されることを期待 |
| アクセス性 | 地域アクセス | (40) 空港や東京・神奈川方面、房総方面、湾岸部の各都市等へのアクセス性が向上することを期待 |
| | 高速アクセス | (41) 高速道路へのアクセスの向上に期待 |
| ネットワーク | リダンダンシー | (42) 移動ルートの選択肢がなく渋滞や事故の際に逃げ場がないことに不満 |
| | 分散 | (43) 局所的な渋滞が生じないよう交通が分散されるようになるとうい |
| | 機能分離 | (44) 高速道路と一般道との機能分離が図られるとうい |
| 安全性 | 事故の減少 | (45) 事故の減少に期待 |
| | 生活道路 | (46) 生活道路への流入があり安全面で心配 |
| | 歩行者・自転車 | (47) 歩行者や自転車の安全性に不安 |
| | 交通変化 | (48) 交通流動が変化すると新たに危険な個所が生じるのではないかと心配 |
| 物流 | 物流の円滑化・効率化 | (49) 物流が円滑化・効率化されることで地域経済の発展に期待 |
| | 自動物流 | (50) 自動物流システムに期待 |
| | 物流・運送交通と一般車の分離 | (51) 物流交通、大型車、バスと一般車が分離されるとよい |

(2) 意見要旨

○「解決すべき課題・期待すること・配慮すべきこと」に関する意見(2/2)

| 分類 | | 意見要旨 |
|---------------------|----------|---------------------------------------|
| 環境 | 三番瀬等自然環境 | (52) 三番瀬等自然環境や水鳥等の生息環境への影響が心配 |
| | 生活環境 | (53) 生活環境への影響が心配 |
| | 大気汚染 | (54) 大気汚染が心配 |
| | 眺望 | (55) 海岸の眺望や街並みが損なわれるのではないかと懸念 |
| | 海岸とのつながり | (56) 憩いの場を与える海岸部と住宅地とのつながりは貴重 |
| 地域活性化 | 魅力の創出 | (57) 新たな観光資源や集客の拠点ができ魅力が高まることに期待 |
| | 企業誘致 | (58) 企業立地や産業誘致が促進されることに期待 |
| | 地域再生 | (59) 地域再生に期待 |
| | 不動産価値 | (60) 不動産価値の低減を招くのではないかと心配 |
| | 経済活動 | (61) 都心へのアクセス向上が経済活動の生産性をもたらすと期待 |
| | | (62) 地域経済の発展や地域活性化、労働生産性の向上に期待 |
| (63) 地場産業に支障がないかと懸念 | | |
| 防災 | 避難や物資輸送 | (64) 被災時の避難や物資輸送ができるようになることに期待 |
| | 防災拠点 | (65) 防災拠点や避難場所、物資保管場所としての機能を期待 |
| 医療連携 | 救急搬送 | (66) 救急搬送の迅速化に期待 |
| | 病院アクセス | (67) 病院へのアクセス性が高まることに期待 |
| コスト | 税負担 | (68) 維持管理の費用負担も含め、新たな税負担に繋がるのではないかと不安 |
| 整備期間 | 早期解決 | (69) 交通問題の早期解決に期待 |
| 考慮すべき その他の視点 | 新たなモビリティ | (70) 自動運転等の新たなモビリティへ対応できるのか心配 |

(3) 対応案

○「計画検討の進め方」に関する意見と対応案

| 分類 | | 意見要旨 | 対応案 | |
|--------|----------|---|-----|--|
| 情報提供 | 伝え方 | (1) わかりやすく理解しやすいことを期待 (2) 地域の声を代表する自治会連合会を介した対応がよい | b | 1) 新湾岸道路ポータルサイトやニュースレターにおいて、計画検討の進め方や検討内容に関する分かりやすい説明を充実させて情報提供を行う |
| | 情報内容 | (3) イメージしやすい具体的な情報など、提供情報が充実されることを期待 (4) プロジェクトがどのような段階にあるのかの情報提供が必要 | a | 2) 現在の検討状況や委員会資料などの情報を新湾岸道路ポータルサイトに公開するとともにニュースレターに分かりやすい説明を掲載して情報提供を行う |
| | | (5) 根拠が示されないと疑問が残る | d | 3) 複数案の提示の段階において根拠を明確にした説明や具体性のある表現を行う |
| | 周知 | (6) プロジェクトについて十分に周知されるよう、多様な方法で周知して欲しい (7) 直接大きな影響が及ぶ住民への具体的な配慮を充実する姿勢が見えず不満 | b | 4) 特設ホームページ、ニュースレター、オープンハウス(パネル展併用)、広報誌、SNSを通じて情報発信を行うとともに、ニュースレターを関係する各自治会に回覧を行う |
| 意見把握 | 発言機会 | (8) 各ステップごとに何度も住民と対話することで、意見を言う機会が充実するとよい | b | 5) オープンハウスや関係者ヒアリング等を通じた対話方式での意見聴取を行い、丁寧なコミュニケーションを重ねながら検討を進める |
| | 方法 | (9) 直接的に何度も対話して意見をくみ取ってもらわないと不安 (10) 広くいろいろな立場の人から意見が反映されるとよい | | |
| | 反映 | (11) アリバイ作りになっているのではないか心配 | a | 6) 新湾岸道路有識者委員会において、いただいた意見が計画検討にどのように反映されたかを報告するとともに、委員会資料を新湾岸道路ポータルサイトで公開する |
| 決め方 | 公平性 | (12) 一方的な主張や意見に偏らないか心配 (13) 納得できる形での決め方に期待 (14) 都合の良い意見のみを恣意的に選ぶことがないことを期待 (15) 他の市民の全ての意見を見たい (16) 有識者委員会に地元の声が届くのか不安に思う | b | 7) いただいた意見をどのように受け取ったかを新湾岸有識者委員会で確認し、その後委員会資料を公開する。いただいた意見は、新湾岸道路ポータルサイトに全ての自由意見の一覧表を公開した |
| | 決定のタイミング | (17) ルートなども初めから決まっているのではないか | b | 8) 複数のルートや構造案を比較評価し検討を行っていく。引き続き、新湾岸道路ポータルサイトで情報共有を行う |
| | 決め方の周知 | (18) どのように決めるのか分からない | b | 9) 計画の検討の進め方や決め方について、ニュースレターやオープンハウス(パネル展併用)で丁寧な説明を行う |
| 検討の進め方 | 複数案 | (19) 様々な案を検討したい | b | 10) 複数のルートや構造案を比較評価し検討を行っていく。引き続き、新湾岸道路ポータルサイトで情報共有を行う |
| | | (20) 整備の優先順位を明確にして欲しい | e | 11) 整備の優先順位については、概略計画決定以降の事業化時に検討する事項として申し送る |
| | 比較評価 | (21) 様々な観点で比較することが重要 (22) 偏った評価になるのではないか心配 (23) 費用や具体的な効果の他、デメリットも明確にすることが重要 (24) 評価項目の重みづけや重視するポイントを明らかにすることが重要 | b | 12) 複数のルートや構造案をメリット・デメリットを含め比較検討を行う 比較検討結果は有識者委員会での確認や、丁寧なコミュニケーション活動を重ねながら再度検討を行う |
| 検討体制 | 体制 | (25) 有識者委員には自然環境の専門家がおらず、地元の状況がしっかり理解され配慮されるのか不安 (26) 地元を理解している県や市にも主体的に関わってもらえると安心 | a | 13) 有識者委員会は、新湾岸道路における概略ルート・構造の検討において、公正中立な立場から計画検討手順の妥当性、コミュニケーション活動及び技術・専門的検討について助言を行う組織として、専門的な知見を持つ学識経験者に参加を頂いている |

「a.補足説明」「b.進め方に反映」「c.解決すべき課題・ニーズ・配慮すべきことに反映」「d.概略計画決定に向けた今後の検討プロセスへの申し送り」「e.概略計画決定以降の事業化時に検討への申し送り」

(3) 対応案

○「解決すべき課題・期待すること・配慮すべきこと」に関する意見と対応案(1/2)

| 分類 | | 意見要旨 | 対応案 |
|-------------|-------------|---|--|
| 交通 需要 | 将来は不要 | (27) 道路を作ることが目的になっているのは問題 (28) 整備しない場合も案に含めて欲しい (29) 将来の交通需要は減少し道路は必要ないのではないか疑問 (30) 国道357号などの混雑区間のみを整備すれば十分だと思う | b 14) 本検討においては、新湾岸道路を整備しない案についても比較検討を行う |
| | 将来にも対応 | (31) 将来の開発や移動需要を見据えて計画することが大切 | d 15) 将来の開発や移動需要を見据えて検討していく |
| 移動性 | 一般道の渋滞 | (32) 一般道(国道357号,国道14号等)の慢性的渋滞の解消に期待 (33) 渋滞に伴う移動時間が無駄 | c 16) 幹線道路の渋滞緩和や特定時間帯の渋滞解消は、解決すべき課題の「渋滞」に含める |
| | 特定時間帯の渋滞 | (34) 通勤時間帯や休日の激しい渋滞の解消に期待 | |
| | 迂回ルート | (35) 渋滞時や災害時の迂回路が必要 | c 17) 渋滞や災害時の迂回ルートについては、解決すべき課題の「渋滞」や「防災」に含める |
| | 南北方向の移動 | (36) 内陸部や南北方向の移動が困難 | e 18) 内陸部や南北方向のネットワーク整備については、概略計画決定以降の事業化時に検討する事項として申し送りする |
| 信頼性 | 移動時間 | (37) 渋滞のため移動時間が読めない | c 19) 渋滞に伴う移動時間の損失は、解決すべき課題の「渋滞」に含める |
| 走行性 | 移動速度 | (38) 信号や右左折車のため走行性が低下することが不満 | c 20) 信号や右折車による走行性の低下は、解決すべき課題の「渋滞」に含める |
| 歩行者・ 自転車 | 歩行者・自転車の移動性 | (39) 歩きやすさや自転車の走りやすさや快適性が改善されることを期待 | e 21) 自転車の走りやすさや快適性の改善などの多機能空間の対応については、概略計画決定以降の事業化時に検討する事項として申し送りする |
| アクセス性 | 地域アクセス | (40) 空港や東京・神奈川方面、房総方面、湾岸部の各都市等へのアクセス性が向上することを期待 | c 22) 空港や都心部などの広域アクセスの向上、高速道路へのアクセスの向上は解決すべき課題の「物流」や「港湾・空港アクセス」に含める |
| | 高速アクセス | (41) 高速道路へのアクセスの向上に期待 | |
| ネット ワーク | リダンダンシー | (42) 移動ルートの選択肢がなく渋滞や事故の際に逃げ場がないことに不満 | c 23) 渋滞や事故時の迂回ルートについては、解決すべき課題の「渋滞」や「事故」に含める |
| | 分散 | (43) 局所的な渋滞が生じないよう、交通が分散されるようになるとうい | c 24) 交通集中の分散や高速道路と一般道との機能分離は、解決すべき課題の「渋滞」に含める |
| | 機能分散 | (44) 高速道路と一般道との機能分離が図られるとうい | |
| 安全性 | 事故の減少 | (45) 事故の減少に期待 | c 25) 交通事故の減少は、解決すべき課題の「事故」に含める |
| | 生活道路 | (46) 生活道路への流入があり安全面で心配 | c 26) 生活道路への流入交通の減少は、解決すべき課題の「生活環境」に含める |
| | 歩行者・自転車 | (47) 歩行者や自転車の安全性に不安 | c 27) 歩行者や自転車の安全性は、解決すべき課題の「生活環境」に含める |
| | 交通変化 | (48) 交通流動が変化すると新たに危険な箇所が生じるのではないかと心配 | e 28) 交通流動の変化に伴う新たな危険な箇所は、概略計画決定以降の事業化時に検討する事項として申し送りする |

(3) 対応案

○「解決すべき課題・期待すること・配慮すべきこと」に関する意見と対応案(2/2)

| 分類 | | 意見要旨 | 対応案 | |
|-------------|----------------|---|-----|---|
| 物流 | 物流の円滑化・効率化 | (49) 物流が円滑化・効率化されることで地域経済の発展に期待 | c | 29) 物流の円滑化・効率化は、解決すべき課題の「物流」に含める |
| | 自動物流 | (50) 自動物流システムに期待 | e | |
| | 物流・運送交通と一般車の分離 | (51) 物流交通、大型車、バスと一般車が分離されるとよい | | 30) 自動物流などの多機能空間の対応については、概略計画決定以降の事業化時に検討する事項として申し送りする |
| 環境 | 三番瀬等自然環境 | (52) 三番瀬等自然環境や水鳥等の生息環境への影響が心配 | c | 31) 三番瀬や谷津干潟などの自然環境への影響については、配慮すべき事項の「豊かな自然環境の保全」に含める |
| | 生活環境 | (53) 生活への様々な環境への影響が心配 | c | 32) 生活環境（騒音、大気汚染）は、配慮すべき事項の「生活環境」を「居住環境」に変更して整理する |
| | 大気汚染 | (54) 大気汚染が心配 | | |
| | 眺望 | (55) 海岸の眺望や街並みが損なわれるのではないかと懸念 | c | 33) 海辺の眺望などの影響については、配慮すべき事項の「海への眺望景観」に含める |
| | 海岸とのつながり | (56) 憩いの場を与える海岸部と住宅地とのつながりは貴重 | c | 34) 地域と海とのつながりや憩いの場として配慮については、配慮すべき事項の「生活環境」を「居住環境」に変更して整理する |
| 地域活性化 | 魅力の創出 | (57) 新たな観光資源や集客の拠点ができ魅力が高まることに期待 | c | 35) 地域経済の発展を支える産業拠点や観光拠点への利便性や企業誘致などの地域活性化については、解決すべき課題の「物流」を「物流・産業」に変更して整理する また、地域の不動産価値の低下については、配慮すべき事項の「生活環境」を「居住環境」に変更して整理する |
| | 企業誘致 | (58) 企業立地や産業誘致が促進されることに期待 | | |
| | 地域再生 | (59) 地域再生に期待 | | |
| | 不動産価値 | (60) 不動産価値の低減を招くのではないかと心配 | | |
| | 経済活動 | (61) 都心へのアクセス向上が経済活動の生産性をもたらすと期待 (62) 地域経済の発展や地域活性化、労働生産性の向上に期待 (63) 地場産業に支障がないかと懸念 | | |
| 防災 | 避難や物資輸送 | (64) 被災時の避難や物資輸送ができるようになることに期待 | c | 36) 防災機能や避難場所、災害時の物資輸送手段の確保については、解決すべき課題の「防災」に含める |
| | 防災拠点 | (65) 防災拠点や避難場所、物資保管場所としての機能を期待 | | |
| 医療連携 | 救急搬送 | (66) 救急搬送の迅速化に期待 | c | 37) 救急搬送の迅速化や、病院へのアクセス性向上については、解決すべき課題の「医療連携」に含める |
| | 病院アクセス | (67) 病院へのアクセス性が高まることに期待 | | |
| コスト | 税負担 | (68) 維持管理の費用負担も含め、新たな税負担に繋がるのではないかと不安 | d | 38) 複数案を比較評価する段階において、経済性の観点や整備期間など多様な視点で比較評価を行う |
| 整備期間 | 早期解決 | (69) 交通問題の早期解決に期待 | | |
| 考慮すべきその他の視点 | 新たなモビリティ | (70) 自動運転等の新たなモビリティへ対応できるのか心配 | e | 39) 自動運転等の新たなモビリティへの対応などの多機能空間の対応については、概略計画決定以降の事業化時に検討する事項として申し送りする |

2. 課題の共有と道路計画の必要性の確認

2-4. 道路計画の必要性の確認

(1) 【参考】千葉県総合計画～新しい千葉の時代を切り開く～

- 千葉県総合計画は、千葉県の政策の基本的な方向を、総合的・体系的にまとめた県政全般に関する最上位の基本的かつ総合的な計画
- 基本目標は、「Ⅰ 危機管理」「Ⅱ 産業・社会資本」「Ⅲ 医療・福祉」「Ⅳ 子ども」「Ⅴ 共生」「Ⅵ 自然・文化」の6項目
- 県内外の交通・連携の強化、慢性的な交通混雑の解消、国際競争や生産性を高めるため新湾岸道路の計画の具体化に向け取り組む

千葉県総合計画 ～新しい千葉の時代を切り開く～ 【体系図】

第1章 計画策定の基本的な考え方

【計画策定の趣旨】

現在、台風等の自然災害や新型コロナウイルスの感染拡大などにより、県民生活や経済活動に大きな被害・影響が及んでいる。また、本県においても、今後、人口が減少していくことが見込まれており、地域経済の縮小や都市・集落の機能低下などが懸念される。

こうした中、県では、感染症や防災対策などの喫緊の課題に対応し、県民の命と暮らしを守るとともに、海と緑に囲まれた自然環境や優れた都市機能を生かし、豊かな県民生活を実現できる「千葉の未来」を切り開いていくため、新たな総合計画を策定する。

【計画の性格】

県政運営の基本となるもので、本県の政策の基本的な方向を、総合的・体系的にまとめた県政全般に関する最上位の基本的かつ総合的な計画。本県が目指す将来像を示し、その実現に向けて、県民と共に取り組んでいくための道しるべとなるもの。

【計画の構成と期間】

基本構想編：10年後。

実施計画編：令和4～6年度までの3か年。

第2章 本県を取り巻く環境の変化と課題（基本構想編）

計画の策定に当たって把握すべき環境の変化と課題を以下のとおり11項目に整理した。

- (1) 感染症・災害等リスクの増大への対応、
- (2) 暮らしの安全・安心の確保、
- (3) 人口減少・少子高齢化への対応、
- (4) 社会経済情勢の変化への対応、
- (5) 半島性の克服と活用、
- (6) 医療・福祉ニーズの増加と健康志向の高まりへの対応、
- (7) 環境保全・持続可能な社会づくり、
- (8) 価値観・ライフスタイルの多様化への対応、
- (9) デジタル社会の推進、
- (10) SDGsの推進、
- (11) 行財政改革の推進

第3章 千葉県が目指す姿（基本構想編）

【基本理念】

～千葉の未来を切り開く～

「まち」「海・緑」「ひと」がきらめく千葉の実現

社会を取り巻く環境が複雑さを増し、将来の予測が困難な中でも、県民の命と暮らしを守るとともに、豊かな自然と文化、優れた都市機能を持つ千葉で、全ての県民が自身のライフスタイルを実現し、生きる価値、働く価値を感じられる「千葉の未来」を創造する。

【基本目標・目指す姿】

| Ⅰ 危機管理 | Ⅱ 産業・社会資本 | Ⅲ 医療・福祉 | Ⅳ 子ども | Ⅴ 共生 | Ⅵ 自然・文化 |
|-----------------|------------------|----------------|------------------|--------------------------|------------------------|
| 危機管理体制の構築と安全の確保 | 千葉経済圏の確立と社会資本の整備 | 未来を支える医療・福祉の充実 | 子どもの可能性を広げる千葉の確立 | 誰もがその人らしく生きる・分かり合える社会の実現 | 独自の自然・文化を生かした魅力ある千葉の創造 |
| 【目指す姿：3項目】 | 【目指す姿：3項目】 | 【目指す姿：2項目】 | 【目指す姿：2項目】 | 【目指す姿：2項目】 | 【目指す姿：3項目】 |

【県づくりの方向性】 地域の特性・地理的条件等を踏まえた6つのゾーンを設定し、各地域の方向性を示した。

県づくりの方向性

- 東葛ゾーン ○印旛ゾーン ○香取・東総ゾーン
- 九十九里ゾーン ○南房総・外房ゾーン ○内房ゾーン

東葛・湾岸ゾーン

湾岸地域においても、臨海緑地帯を中心に、東京への通勤の利便性等から、一早く人口集積が見られ、また、幕張新都心においては、これまで、国際展示場、国際会議場などを有する幕張メッセをはじめ、国際的な企業、教育・研究施設、商業施設等の立地や住宅整備が進んでおり、今後も、京葉線新習志野・海浜幕張間に新駅「幕張豊砂駅」の設置が予定されています。

【ゾーンの方向性】

多様な産業と都市機能の一層の充実を図り、首都圏での都市間競争における更なる優位性向上を図る

通勤・通学などによる都内との交流が活発であり、人口も密集している本ゾーンでは、新たな感染症が発生した際に、ゾーン内において、急速な感染拡大が生じる可能性が高く、特に迅速かつ適切な対応が求められ、また、災害発生時においても帰宅困難者対策や広域避難など、重要な対応が迫られる地域です。

このため、政令指定都市や中核市をはじめ、各市と連携した対策を推進していきます。

本ゾーンは、県都千葉市をはじめとする、充実した都市機能と活力を備えた都市群で形成されており、また、東京に隣接し、成田・羽田空港の中間に位置することから、東京、成田空港間の人・モノ・財の流れを商業及び観光業など様々な分野に取り込み、活用していくことが期待されています。

県内外の交流・連携の強化や慢性的な交通混雑の解消を図り、国際競争力や首都圏の生産性を高めるため、北千葉道路の整備促進、京葉道路の渋滞対策、国道357号の機能強化、新たな湾岸道路及び千葉北西連絡道路の計画の具体化に向けて取り組むとともに、県境橋りょうや都市計画道路の整備を進めます。

また、こうした各種道路整備の進展も踏まえ、各市と連携し、企業誘致の受け皿となる産業用地の確保に努めていきます。

ゾーン内には、東京大学柏キャンパスや千葉大学をはじめとした理工系大学や東葛テクノプラザ、産業技術総合研究所柏センターなどの研究機関、国立がん研究センター東病院や千葉大学医学部附属病院の臨床研究中核病院、中小のものづくり企業などが集積していることから、これらを結び付ける医工連携などによる産学官連携の取組を進めることで、ものづくり産業の振興を図っていきます。

(2) 達成すべき目標と道路計画の必要性 (1/2)

○千葉県総合計画、コミュニケーション活動の結果を踏まえ、達成すべき目標を設定

| 千葉県総合計画 (基本目標・目指す姿) | コミュニケーション活動で得られた意見要旨 解決すべき課題・新湾岸道路に期待すること | | 達成すべき目標 |
|--|--|--|---|
| | I 危機管理 危機管理体制の構築と 安全の確保 | 交通渋滞 | |
| II 産業・社会資本 千葉経済圏の確立と 社会資本の整備 | 交通事故 | <ul style="list-style-type: none"> ○事故減少に寄与する幹線道路網の整備 ○移動ルートを選択肢の増加 | 高速道路への交通転換を促進し、事故発生時にも代替経路が確保される道路ネットワークの形成 |
| III 医療・福祉 未来を支える 医療・福祉の充実 | 医療 | <ul style="list-style-type: none"> ○救急搬送の走行性向上 ○救急病院へのアクセス性向上 | 交通の円滑化による医療施設への速達性や定時性の確保 |
| IV 子ども 子どもの可能性を 広げる千葉の確立 | 防災 | <ul style="list-style-type: none"> ○災害時の避難、物資輸送が確保される幹線道路網の形成 ○防災拠点へのアクセス向上、災害時避難場所等の機能 ○著しい渋滞が発生した場合や災害時の迂回ルートの確保 | 災害発生時の避難・復旧を支える道路ネットワークの構築 |
| V 共生 誰もがその人らしく 生きる・分かり合える 社会の実現 | 物流・産業 | <ul style="list-style-type: none"> ○地域経済の発展に寄与する物流交通の円滑化・効率化 ○新たな観光資源や集客拠点の創出への貢献 ○地域活発化や労働生産性の向上に寄与する整備 ○高速ICへのアクセス性向上 ○物流・運送交通と一般車の分離可能な空間の確保 | 地域経済の発展を支える産業拠点・観光拠点への速達性向上 |
| VI 自然・文化 独自の自然・文化を 生かした魅力ある 千葉の創造 | 港湾・空港 アクセス性 | <ul style="list-style-type: none"> ○将来交通量への対応 ○空港、地域外、湾岸都市間のアクセス性向上 ○都心部アクセス性の向上による経済活動の活発化の促進 | 千葉港や成田・羽田空港への時間信頼性の向上 |
| | 生活環境 | <ul style="list-style-type: none"> ○生活道路への通過交通流入が生じない幹線道路網の強化 ○歩行者や自転車の安全性向上に寄与する幹線道路の整備 | 生活道路事故の解消や歩行者・自転車の安全性を高める骨格道路ネットワークの形成 |

(2) 達成すべき目標と道路計画の必要性 (2/2)

○達成すべき目標を踏まえ、新たな道路計画の必要性を確認

| 達成すべき目標 | | 新たな道路を整備しない案 |
|----------------|---|--|
| 交通渋滞 | 高速道路・幹線道路の適切な機能分担による交通混雑の緩和 | 速達性は現状と変わらないため、交通渋滞緩和の見込みが低い |
| 交通事故 | 高速道路への交通転換を促進し、事故発生時にも代替経路が確保される道路ネットワークの形成 | 代替経路が確保されず、事故渋滞の発生状況は現状と変わらないため渋滞を起因とした事故減少の見込みが低い |
| 医療 | 交通の円滑化による医療施設への速達性や定時性の確保 | 交差点での速度低下は現状と変わらず、救急医療施設への速達性や定時性の確保は現状と変わらない |
| 防災 | 災害発生時の避難・復旧を支える道路ネットワークの構築 | 災害時の避難・物資輸送を支える道路ネットワークは現状と変わらないため、災害時の避難・物資輸送を支えられない |
| 物流・産業 | 地域経済の発展を支える産業拠点・観光拠点への速達性向上 | 産業・観光拠点への速達性は現状と変わらないため、高速ICへのアクセス性が向上されない |
| 港湾・空港 アクセス性 | 千葉港や成田・羽田空港への時間信頼性向上 | 速達性は現状と変わらないため、千葉港や成田・羽田空港へのアクセス性は向上されない |
| 生活環境 | 生活道路事故の解消や歩行者・自転車の安全性を高める骨格道路ネットワークの形成 | 生活道路における交通事故解消や歩行者・自転車の安全性確保は現状と変わらないため、幹線道路の交通事故の緩和見込みが低い |

※渋滞への対処として、TDM等の交通量の抑制施策があるが、物流等も含め大きな役割を担う国道357号の交通量を勘案すれば、新たな道路を整備することなしに交通量の抑制施策のみでは、物流・産業等も含めた目標の達成は困難

新たな道路計画が必要

※新たな道路を整備しない案は、複数案の設定において、比較評価のベースラインとして提示

3. 複数案の設定と評価項目の設定

3-1. 複数案を比較評価するための評価指標について

(1) 達成すべき目標を踏まえた評価項目(案)の設定

○第1回コミュニケーション活動を踏まえ、「達成すべき目標」「配慮すべきこと」に対する評価項目(案)を設定

■「達成すべき目標」に対する評価項目

| 達成すべき目標 | 評価項目(案) | |
|--|------------|------------------------------------|
| 高速道路・幹線道路の適切な機能分担による交通混雑の緩和 | 交通渋滞 | ・幹線道路の渋滞緩和 |
| 高速道路への交通転換を促進し、事故発生時にも代替経路が確保される道路ネットワーク形成 | 交通事故 | ・交通事故の減少 ・事故発生時の迂回機能 |
| 交通の円滑化による医療施設への速達性や定時性の確保 | 医療 | ・救急医療施設等への速達性の向上 |
| 災害発生時の避難・復旧を支える道路ネットワークの構築 | 防災 | ・災害発生時のリダンダンシー ・災害発生時の防災機能 |
| 地域経済の発展を支える産業拠点・観光拠点への速達性向上 | 物流・産業 | ・物流拠点へのアクセス性向上 ・観光施設へのアクセス性向上 |
| 千葉港や成田・羽田空港への速達性および時間信頼性の向上 | 港湾・空港アクセス性 | ・千葉港へのアクセス性向上 ・羽田・成田空港へのアクセス性向上 |
| 生活道路事故の解消や歩行者・自転車の安全性を高める骨格道路ネットワークの形成 | 生活環境 | ・生活道路への流入交通の減少 |

■「配慮すべきこと」に対する評価項目

| 配慮すべきこと | 評価項目(案) | |
|---------------------------------|---------|------------------------------|
| 豊かな自然環境への配慮 | 自然環境 | ・三番瀬や谷津干潟 ・渡り鳥の飛行経路 |
| 海辺の眺望景観の保全 | 景観 | ・海辺の眺望景観 |
| 居住環境(沿道環境、海とのつながりやレクリエーション等)の保全 | 居住環境 | ・沿道環境(騒音・大気質など) ・自然とのつながり |
| 経済性 | 経済性 | ・事業費 |

3. 複数案の設定と評価項目の設定

3-2. 概略ルート・構造案について

(1) 複数の対応案の考え方

| 達成すべき目標 | |
|----------------|---|
| 交通渋滞 | 高速道路・幹線道路の適切な機能分担による交通混雑の緩和 |
| 交通事故 | 高速道路への交通転換を促進し、事故発生時にも代替経路が確保される道路ネットワークの形成 |
| 医療 | 交通の円滑化による医療施設への速達性や定時性の確保 |
| 防災 | 災害発生時の避難・復旧を支える道路ネットワークの構築 |
| 物流・産業 | 地域経済の発展を支える産業拠点・観光拠点への速達性向上 |
| 港湾・空港 アクセス性 | 千葉港や成田・羽田空港への速達性および時間信頼性の向上 |
| 生活環境 | 生活道路事故の解消や歩行者・自転車の安全性を高める骨格道路ネットワークの形成 |

| 配慮すべきこと | |
|---------|---------------------------------|
| 自然環境 | 豊かな自然環境の保全 |
| 景観 | 海辺の眺望景観の保全 |
| 居住環境 | 居住環境（沿道環境、海とのつながりやレクリエーション等）の保全 |
| 経済性 | 事業費 |



達成すべき目標と配慮すべきことを踏まえて設定した複数案

新湾岸道路の整備に加え、一般道路の改良であるその他の道路整備での対応も含めて、複数案を設定

【案 1-1】

高架構造を主体とする道路

【案 1-2】

地下構造を主体とする道路

【案 2】

現道対策 + 一部バイパス整備

※新たな道路を整備しない案は、複数案の設定において、比較評価のベースラインとして提示

(2)新たな道路を整備しない案

○新たな道路を整備しない案では、目標を達成することは困難

| | | 新たな道路を整備しない案 | |
|---------|------------|---|--|
| 達成すべき目標 | 交通渋滞 | 高速道路・幹線道路の適切な機能分担による交通混雑の緩和 | 速達性は現状と変わらないため、交通渋滞緩和の見込みが低い |
| | 交通事故 | 高速道路への交通転換を促進し、事故発生時にも代替経路が確保される道路ネットワークの形成 | 代替経路が確保されず、事故渋滞の発生状況は現状と変わらないため渋滞を起因とした事故減少の見込みが低い |
| | 医療 | 交通の円滑化による医療施設への速達性や定時性の確保 | 交差点での速度低下は現状と変わらず、救急医療施設への速達性や定時性の確保は現状と変わらない |
| | 防災 | 災害発生時の避難・復旧を支える道路ネットワークの構築 | 災害時の避難・物資輸送を支える道路ネットワークは現状と変わらないため、災害時の避難・物資輸送を支えられない |
| | 物流・産業 | 地域経済の発展を支える産業拠点・観光拠点への速達性向上 | 産業・観光拠点への速達性は現状と変わらないため、高速ICへのアクセス性が向上されない |
| | 港湾・空港アクセス性 | 千葉港や成田・羽田空港への時間信頼性向上 | 速達性は現状と変わらないため、千葉港や成田・羽田空港へのアクセス性は向上されない |
| | 生活環境 | 生活道路事故の解消や歩行者・自転車の安全性を高める骨格道路ネットワークの形成 | 生活道路における交通事故解消や歩行者・自転車の安全性確保は現状と変わらないため、幹線道路の交通事故の緩和見込みが低い |

※渋滞への対処として、TDM等の交通量の抑制施策があるが、物流等も含め大きな役割を担う国道357号の交通量を勘案すれば、新たな道路を整備することなしに交通量の抑制施策のみでは、物流・産業等も含めた目標の達成は困難

| | | 新たな道路を整備しない案 | |
|---------|------|---------------------------------|------------------------------|
| 配慮すべきこと | 自然環境 | 豊かな自然環境への配慮 | 三番瀬や谷津干潟などの自然環境への影響は現状と変わらない |
| | 景観 | 海辺の眺望景観の保全 | 眺望景観は現状と変わらない |
| | 居住環境 | 居住環境（沿道環境、海とのつながりやレクリエーション等）の保全 | 居住環境は現状変わらない |
| | 経済性 | 事業費 | — |

(3) 概略ルート・構造案



| 案1 バイパス整備案 基本断面 | |
|-----------------|--|
| ルート概要 | 新設道路を沿線市の市街地や自然環境(三番瀬や谷津干潟)を避けつつ、千葉港や京葉臨海工業地帯へのアクセス性を重視して最短で結ぶルート案 |
| 主たる構造(案) | <p>案1-1 高架構造を主体とする道路</p> <p>案1-2 地下構造を主体とする道路 ※地下構造は陸上部が連続する区間を想定 ※その他の区間については、高架構造を想定</p> |
| 主要構造イメージ(横断面) | <p>※車線数は、4~6車線を想定</p> |

| 案2 現道対策+一部バイパス整備案 基本断面 | |
|------------------------|-------------------------------|
| ルート概要 | 国道357号や国道16号を拡幅し、一部新設道路を整備する案 |
| 主要構造イメージ(横断面) | <p>※車線数は、4~6車線を想定</p> |

※現時点で想定している標準的な横断面図示すものであり、今後、詳細に検討します。

(4) 複数案と評価項目(案)

| 評価項目(案) | | 案1 バイパス整備案 | | 案2 現道対策+一部バイパス整備案 |
|------------|---|---|---|--|
| | | 案1-1高架構造を主体とする道路 | 案1-2地下構造を主体とする道路 ※地下構造は陸上部が連続する区間を想定 ※その他の区間については、高架構造を想定 | |
| 比較ルートの考え方 | | ・新設道路を沿線市の市街地や自然環境(三番瀬や谷津干潟)を避けつつ、千葉港や京葉臨海工業地帯へのアクセス性を重視して最短で結ぶルート案 | | ・国道357号や国道16号等を拡幅し、一部新設道路を整備する案 |
| 達成すべき目標(案) | 交通渋滞 | ・千葉港や物流拠点等を起終点としている交通や千葉県湾岸地域を通過する交通が幹線道路(現道)から分離することで渋滞が緩和し、速達性が期待できる ・主要渋滞箇所を回避することができるため、速達性の向上が期待できる | | ・交通容量は増えるが、平面交差数は変わらず、バイパス整備と比較して効果は小さく、速達性が期待できない |
| | 交通事故 | ・千葉港や物流拠点等を起終点としている交通や千葉県湾岸地域を通過する交通が幹線道路(現道)から分離することで渋滞が緩和され、渋滞起因の事故の減少が期待できる ・事故危険箇所を回避することができる | | ・湾岸地域の主な幹線道路の交通事故の減少が期待できるが、バイパス整備と比較して効果は小さい |
| | | ・事故等による高速道路の通行止め発生時に高規格道路の迂回路として機能する | | ・事故等による高速道路の通行止め発生時に高規格道路の迂回路として機能しない |
| | 医療 | ・アクセスコントロールがされた自専道を走行することで、交差点での速度低下がなくなり、救急医療施設への速達性が向上する | | ・平面交差数は変わらないため、救急医療施設への速達性が期待できない |
| | 防災 | ・浸水想定高よりも高い位置(5m以上)での整備を行うため、津波・高潮等の影響を受けにくく、代替路として機能する | | ・浸水想定高よりも低い位置での整備となるため、津波・高潮時に浸水するリスクがあり、代替路として機能しない |
| | | ・千葉港(葛南中央地区)へのICの整備により、連絡路が確保され、孤立化のリスクが低減(アクセス路:1か所→2か所) | | ・千葉港(葛南中央地区)の孤立化のリスクが改善されない |
| | 防災 | ・浸水想定高よりも高い位置(5m以上)での整備を行うため、津波・高潮時からの避難場所として機能する | | ・浸水想定高よりも低い位置での整備となるため、津波・高潮等からの避難場所として機能しない |
| | | ・物流拠点への高速ICからのアクセス性が向上する | | ・バイパス整備案と比較して効果は小さい |
| | 物流・産業 | ・トンネルの整備はないため、危険物積載車両制限なし | | ・水底トンネルやトンネル延長が5km以上となる場合には、危険物積載車両が通行制限となる可能性がある |
| | | ・観光施設へのアクセス性向上 | | ・高速ICが整備されることで、湾岸地域の観光施設へのアクセス性が向上する |
| 港湾・空港アクセス性 | ・千葉港(千葉中央地区)へのIC整備により、千葉港への速達性の向上やルートの選択肢が増える | | ・バイパス整備案と比較して効果は小さい | |
| | ・新たに道路ネットワークを形成することで、都心や羽田空港と成田空港方面への速達性の向上やルートの選択肢が増える | | ・バイパス整備案と比較して効果は小さい | |
| 生活環境 | ・新たな道路ネットワークを形成することで通過交通を幹線道路(現道)から分離し、適切な交通分担を図ることにより生活道路へ流入する通過交通の減少が期待できる | | ・生活道路へ流入する通過交通の減少が期待できるが、バイパス整備と比較して効果は小さい | |
| 配慮すべきこと(案) | 自然環境 | ・三番瀬や谷津干潟 | | ・三番瀬や谷津干潟を避けるため、自然環境への影響は小さい |
| | 自然環境 | ・渡り鳥の飛来経路 | | ・渡航路部の長大橋が渡り鳥の飛来経路に与える影響を検討する必要がある |
| | 自然環境 | ・海辺の眺望景観 | | ・眺望や景観に影響を与える可能性がある |
| 居住環境 | ・眺望や景観に影響を与える可能性がある | | ・高架構造以外の区間は眺望や景観への影響は避けられる | ・影響はない |
| | ・千葉港や物流拠点等を起終点としている交通や市原市方面へ向かう通過交通が幹線道路(現道)から分離することで渋滞が緩和し、幹線道路の混雑緩和により、現道の沿道環境の改善が見込まれる | | ・沿線の環境対策が必要となる可能性がある | |
| 居住環境 | ・新設道路沿線の環境対策が必要となる可能性がある | | ・新設道路沿線の環境対策が必要となる可能性は低い | |
| | ・千葉港(葛南中央地区)へのICの整備により、自然と触れ合い活動の場となる三番瀬への利便性が向上する | | ・三番瀬への利便性は向上しない | |
| 居住環境 | ・自然と触れ合い活動の場となる海浜公園などの海辺へのアクセスは変わらない | | ・海浜公園などの海辺へのアクセスは変わらない | |
| | 経済性 | 事業費 | | 約1兆円 ※注1、注2 |
| 経済性 | 事業費 | | 約2兆円 ※注1、注2 | 約0.5兆円 ※注1、注2 |

注1)事業費は精査中。注2)当該事業費は、近年の物価高騰を踏まえた増額リスクを考慮した補正を行っていない。注3)付加機能(自動物流、自転車ハイウェイ)は、事業化後に検討
注4)新たな道路を整備しない案は、複数案の設定において、比較評価のベースラインとして提示(P34)

3. 複数案の設定と評価項目の設定

3-3. 第2回コミュニケーション活動について

(1) 第2回コミュニケーション活動(情報発信)の実施内容

■ 地域への情報発信について

※赤字は第1回コミュニケーション活動のメニューから追加するもの

| 周知方法 | 周知対象 | 概要 | 実施予定 | 実施期間 |
|--|---------------------|---|---|---|
| 特設ホームページ | 沿線地域住民・沿線地域外の住民・事業者 | ・特設ホームページを開設し、計画の進捗、これまでの検討資料など新湾岸道路に関する情報を提供 | ・千葉国道事務所「新湾岸道路ポータルサイト」 ・千葉県、千葉市、市川市、船橋市、習志野市、市原市、浦安市の各HPで新湾岸道路コーナーの作成、新湾岸道路ポータルサイトへのリンクを掲載 | ・令和6年9月6日開設 ・令和7年7月更新 |
| 新聞広告 ラジオ テレビ | | ・地元新聞や地元ラジオで、新湾岸道路の意見聴取の実施について情報提供 | ・千葉日報 ・BAYFM78 ・千葉テレビ | ・令和7年7月 |
| SNS(X・YouTube) | | ・新湾岸道路の概要について、X(旧Twitter)にて記事等を掲載し情報発信するとともにYouTubeを用いて概要の解説動画を配信 | ・X(旧Twitter):千葉国道事務所@milit_chibakoku ・YouTube 関東地方整備局 広報チャンネル 千葉市公式チャンネル Chiba City official | ・令和7年7月～ |
| ニュースレター | 主に沿線地域の住民・事業者 | ・新湾岸道路の検討状況や内容など、その時々ニュース情報を湾岸地域の地域住民等に情報提供 | ・ニュースレター「未来をつなぐ新湾岸道路プロジェクト」第3号を5万部発行 ・電子媒体:新湾岸道路ポータルサイトへ掲載 ・紙媒体:湾岸地域の沿線市(千葉市、市川市、船橋市、習志野市、市原市、浦安市)の公共施設(市役所、公民館など)、257箇所へ配架 | ・令和7年7月 電子媒体の掲載 ・令和7年7～8月 各施設へ配架 |
| オープンハウス (パネル展併用) (必要に応じてワークショップ) | | ・市役所や集客施設等でパネル展示等による情報提供を行うとともに、対話形式による解説や意見聴取を行う | ・沿線市(区)役所:千葉市、市川市、船橋市、習志野市、市原市、浦安市 ・集客施設:ららぽーとTOKYOBAY、アリオ市原、イモール幕張新都心など ・道の駅いちかわ、休憩施設等、計27箇所で開催 ・地域イベント(祭り)等 | ・令和7年8月～11月 ※パネル展示期間も含む |
| 広報誌 広報チラシ | | ・千葉県や沿線各市の広報誌でオープンハウスの開催や意見募集等を呼びかけ | ・千葉県、千葉市、市川市、船橋市、習志野市、市原市、浦安市 | ・令和7年7月～ |
| | | ・新湾岸道路の広報チラシを湾岸地域の地域住民に情報提供 | ・湾岸地域の沿線市(千葉市、市川市、船橋市、習志野市、市原市、浦安市)にポスティング | ・令和7年7～8月頃 |
| その他 | | ・沿線市の公立・私立の小中学校(教育委員会含む)へキッズチラシを配布 | ・沿線市の小・中学校 | ・令和7年7月 |
| | | ・オープンハウスの開催日時と場所をポスターで掲示 | ・沿線市役所と商業施設(アリオ市原)のHP | ・令和7年7月～ |

(2) コミュニケーション活動(意見聴取)の実施概要

○第2回意見聴取は、沿線地域の対象者から幅広く意見を把握するため、アンケート、オープンハウス、関係者ヒアリングを行う

■地域との意見聴取について

※赤字は第1回コミュニケーション活動のメニューから追加するもの

| 実施内容 | 実施対象 | 概要 | 実施箇所等 | 実施期間 |
|--|----------------------------|--|--|---------------------------|
| アンケート | 主に地域住民 | <ul style="list-style-type: none"> ・特設ホームページに意見フォームを開設し、インターネットを閲覧した人にアンケートを実施してもらうことで意見の把握を行う ・ニューズレターに紙媒体のアンケートを折り込むことでデジタルに接していない層からも意見の把握を行う | <ul style="list-style-type: none"> ・新湾岸道路ポータルサイト内のWebアンケート http://form.run/@shinwangandouro ・ニューズレター「未来をつなぐ新湾岸道路プロジェクト」第3号にアンケート票を挟み込み | 令和7年7月～11月 |
| オープンハウス (パネル展併用) (必要に応じて ワークショップ) | | <ul style="list-style-type: none"> ・市役所や集客施設等でパネル展示等による情報提供を行うとともに、対話形式による解説や意見聴取を行う | <ul style="list-style-type: none"> ・沿線市(区)役所:千葉市、市川市、船橋市、習志野市、市原市、浦安市 ・集客施設:ららぽーとTOKYOBAY、アリオ市原イオンモール幕張新都心など ・道の駅いちかわ、休憩施設(幕張PA、市原SA) 計27箇所で開催 | 令和7年8月～11月 ※パネル展示期間も含む |
| 関係者 ヒアリング | 湾岸地域を利用している企業や沿線地域住民などの関係者 | <ul style="list-style-type: none"> ・経済産業、運輸物流、医療教育等の企業・団体・管理者等へアンケート票を送付 | <ul style="list-style-type: none"> ・沿線企業 ・地元経済・商工業団体 ・公共・観光交通、物流業者 ・医療関係 ・警察、消防本部 ・教育機関 ・施設管理者 ・漁業協同組合 ・まちづくりに関心のある協議会等 | 令和7年8月～ |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・環境に関心のある団体や地域住民に個別説明を実施して意見を聴取 | <ul style="list-style-type: none"> ・環境に関心のある団体 (NPO法人や三番瀬保護団体) ・地域住民(千葉市) | 令和7年8月～ |

(2) コミュニケーション活動(意見聴取)の実施概要

○新湾岸道路における地域への情報発信(特設HP、ニューズレター)について

○意見フォーム(案)

| 回答用紙(1/2) | | | |
|---|--|-----|---|
| 差し支えない範囲であなたについてお聞かせください | | | |
| ●お住みの地域 | 県・都 市・区 | ●性別 | <input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性 |
| ●ご年齢 | <input type="checkbox"/> 20歳未満 <input type="checkbox"/> 20代 <input type="checkbox"/> 30代 <input type="checkbox"/> 40代 <input type="checkbox"/> 50代 <input type="checkbox"/> 60代 <input type="checkbox"/> 70歳以上 | | |
| ●職業 | <input type="checkbox"/> 会社員 <input type="checkbox"/> 公務員 <input type="checkbox"/> 自営業 <input type="checkbox"/> 学生 <input type="checkbox"/> 主婦・主夫 <input type="checkbox"/> その他 | | |
| 湾岸地域※の道路の利用状況についてお答えください | | | |
| ●自家用車や業務車両は、どの程度の頻度でご利用になられますか？ | | | |
| <input type="checkbox"/> 週5回以上 <input type="checkbox"/> 週3~4回 <input type="checkbox"/> 週1~2回 <input type="checkbox"/> 月1~2回 <input type="checkbox"/> 年数回 <input type="checkbox"/> 利用しない | | | |
| ●普段ご利用されている主な交通手段は何ですか？ | | | |
| <input type="checkbox"/> 自動車 <input type="checkbox"/> 公共交通 <input type="checkbox"/> バイク <input type="checkbox"/> 自転車 <input type="checkbox"/> その他 | | | |
| ●ご利用のある方にお聞きます。ご利用の主な目的は何ですか？(複数選択可) | | | |
| <input type="checkbox"/> 通勤・通学 <input type="checkbox"/> 家事・買い物 <input type="checkbox"/> 仕事(営業・運送等) <input type="checkbox"/> 通院 <input type="checkbox"/> 観光・レジャー <input type="checkbox"/> 利用しない <input type="checkbox"/> その他 | | | |

※湾岸地域・・・千葉市、市川市、船橋市、習志野市、市川市、浦安市の沿岸部地域と考えています。

| 問1)望ましいルート帯を考える際に重要だと思うことを選んでください。複数回答可 | | | |
|---|-----------------|--------------------------|----------------|
| <input type="checkbox"/> | 幹線道路の渋滞緩和 | <input type="checkbox"/> | 羽田・成田空港へのアクセス性 |
| <input type="checkbox"/> | 交通事故の減少 | <input type="checkbox"/> | 生活道路へ流入交通の減少 |
| <input type="checkbox"/> | 事故発生時の迂回機能 | <input type="checkbox"/> | 三番瀬や谷津干潟 |
| <input type="checkbox"/> | 救急医療施設等への速達性の向上 | <input type="checkbox"/> | 渡り鳥の飛来経路 |
| <input type="checkbox"/> | 災害発生時のリダンダンシー | <input type="checkbox"/> | 海辺の眺望景観 |
| <input type="checkbox"/> | 災害発生時の防災機能 | <input type="checkbox"/> | 沿道環境(騒音・振動・大気) |
| <input type="checkbox"/> | 物流拠点へのアクセス性向上 | <input type="checkbox"/> | 自然とのつながり |
| <input type="checkbox"/> | 観光施設へのアクセス性向上 | <input type="checkbox"/> | 事業費 |
| <input type="checkbox"/> | 千葉港へのアクセス性向上 | | |

具体的なご意見等ありましたらお書きください。

○ニューズレター(第3号)

新湾岸道路(外環高谷JCT周辺から蘇我IC周辺ならびに市原IC周辺)計画の検討に関する情報をお届けします!

未来をつなぐ(案) 新湾岸道路プロジェクト 第3号 2025.

様々な交通課題をご指摘いただきました

第1回新湾岸道路有識者委員会(令和6年8月2日)および現地視察及び懇話会(令和6年10月25日)を経て、情報発信と意見聴取のコミュニケーション活動の実施を了承されて、令和6年11月15日新湾岸道路プロジェクト・コミュニケーション活動(オープンハウス、ニューズレター)がスタートしました。

意見聴取では、「湾岸地域において解決すべき課題」「新湾岸道路に期待すること」「新湾岸道路について配慮すべきこと」「道路の付加機能」「計画検討の進め方」等についてご意見を募集しました。(令和6年11月15日~令和7年2月28日の約3ヶ月間実施)

令和7年5月28日、第2回新湾岸道路有識者委員会で、コミュニケーション活動実績及び計画検討の進め方や達成すべき目標の内容について報告、適切に実施されたとの評価をいただき、湾岸地域の課題と道路計画の必要性を確認いただきました。これら審議結果を受けて「建設案の概定と評価項目の設定」の検討に着手しました。

コミュニケーション活動を通じてたくさんのご意見をいただきました

皆様と情報共有を回り意見を把握するため、令和6年11月15日から令和7年2月28日の期間でコミュニケーション活動を実施し、アンケートについては4,331件の回答が寄せられました。寄せられたご意見については、新湾岸道路プロジェクトポータルサイトに掲載しております。加えて、環境に関心のある団体、沿線の地域住民へのヒアリングを通じて様々なご意見をいただきました。

皆様から寄せられたご意見は、意見要旨として整理し、第2回有識者委員会でご報告しました。(次ページに意見要旨を掲載)



オープンハウスの様子



▶ 令和7年5月28日に第2回新湾岸道路有識者委員会が開催されました。

副井鉄雄委員長(東京科学大学教授・名誉教授)をはじめ、有識者委員会の委員の方々にご参加いただき、第2回新湾岸道路有識者委員会が開催されました。

今回の委員会は、オープンハウス(パネル展を中心とした情報提供)やアンケート・ヒアリング等のコミュニケーション活動の実施状況、コミュニケーション活動を通じていただいたご意見を意見要旨にとりまとめ、意見要旨に対する対策案と意見に対する対応策(案)、道路計画の必要性について、委員の方々から多様なご意見をいただきました。

続いて、達成すべき目標を踏まえた評価項目(事務局案)や建設ルート帯(事務局案)、今後の計画検討プロセスの進め方について、様々な視点で評価いただきました。

第2回新湾岸道路有識者委員会の様子

コラム 新湾岸道路プロジェクトとは

新湾岸道路の構想の具体化では、詳細な計画(都市計画)を定める前に、先ず概略ルート・構造を示した概略計画を定めます(構想段階)。

新湾岸道路の沿線地域には、三番瀬等の貴重な自然資源があり、予め十分な配慮が必要です。このため、構想段階における新湾岸道路プロジェクトでは、沿線の皆様とコミュニケーションを重ねながら、新湾岸道路の概略計画の検討と併せて、沿線地域の関連する課題についても一体的に検討していきます。

今後、透明で公正な進め方となるよう有識者委員会の助言を受けながら、概略ルート・構造等の検討を進めていきます。